

# インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

## ●インターネットへ接続する...Windows® Server™2003/XP/2000

### ◇STEP1 ネットワークプロトコル(TCP/IP)をインストールする

インターネットに接続するためには「ネットワークプロトコル(TCP/IP)」をインストールする必要があります。もし、すでに「TCP/IP」がインストールしてある場合は、次の「STEP3 ダイアルアップネットワークを設定する」に進んでください。

- 1** 「スタート」→(Windows®2000の場合は、「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク接続(Windows®2000の場合は、「ネットワークとダイヤルアップ接続」)」をダブルクリックしてください。

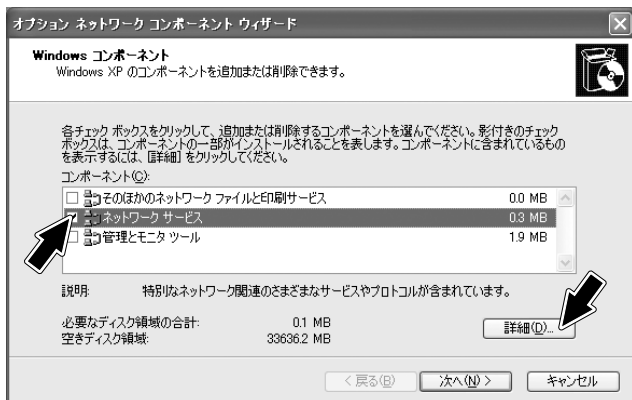


- 2** 「詳細設定」メニューから「オプションネットワークコンポーネント」を選び、オプションネットワークコンポーネントウィザードを起動してください。

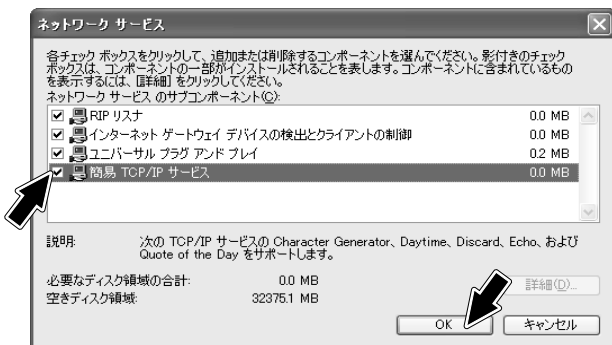


# インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

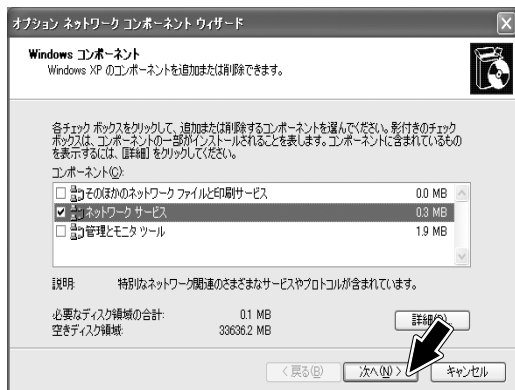
**3** 「ネットワークサービス」を選択しチェックを入れ、「詳細」をクリックしてください。



**4** 「簡易 TCP/IP サービス」欄にチェックがあれば、すでにインストールは完了しています。次の「STEP3 ダイアルアップネットワークを設定する」に進んでください。チェックがない場合は、「簡易 TCP/IP サービス」をチェックし、「OK」をクリックしてください。

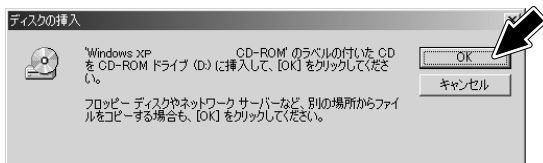


**5** 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」画面に戻りますので「次へ」をクリックしてください。



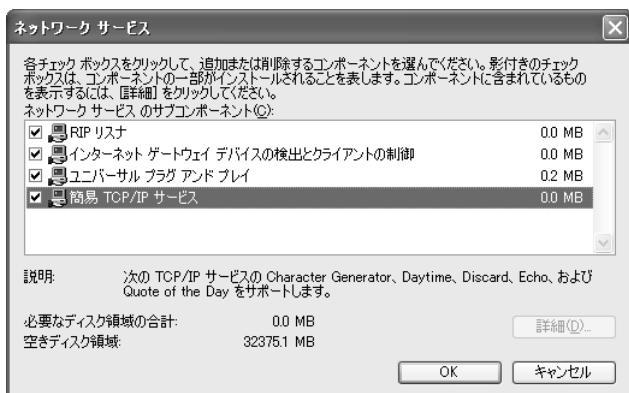
# インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

**6** 「ディスクの挿入」が求められる場合は、Windows®XP/2000システムディスクを挿入し、「OK」をクリックし、指示にしたがってください。



**7** コンポーネントの再構成が行われ、「オプションネットワークコンポーネントウィザード」が終了します。

**8** 再度、「詳細設定」→「オプションネットワークコンポーネント」→「ネットワークサービス」→「詳細」をクリックし、「簡単 TCP/IP サービス」欄にチェックがあることを確認してください。



# インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

## ◇STEP2 ダイアルアップ ネットワークを設定する

以下は、Windows® Server™2003/XP の画面で説明しています。Windows®2000 をお使いの方は、以下を参考にして設定してください。

### 1 ダイアルアップネットワーク設定画面を開く

Windows® Server™2003/XP..... 「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワーク接続」をダブルクリックしてください。

Windows®2000... 「スタート」→「設定」→「ネットワークとダイアルアップ接続」をクリックしてください。



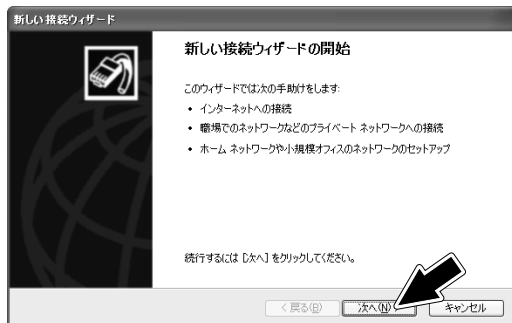
### 2 「新しい接続方法を作成する」をクリックしてください。

Windows®2000...「新しい接続の作成」アイコンをダブルクリックしてください。

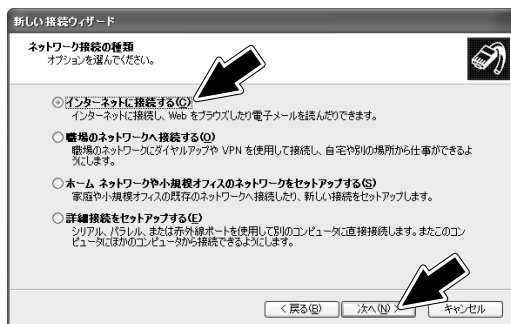
\* ご使用のパソコンによっては所在地情報の入力画面が表示されることがあります。必要に応じて入力し、「OK」をクリックしてください。



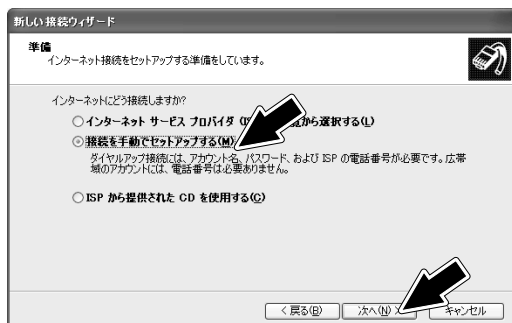
**3** 「次へ」をクリックしてください。



**4** 「インターネットに接続する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。  
Windows® 2000... 「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択してください。



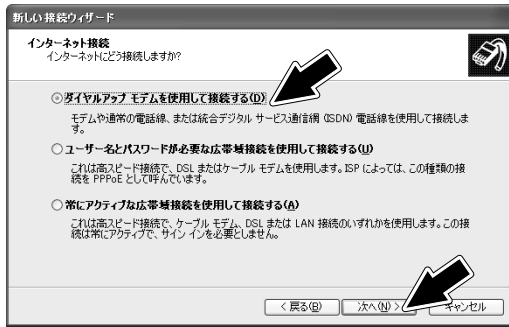
**5** 「接続を手動でセットアップする」を選択し、「次へ」をクリックしてください。  
Windows® 2000... 「インターネット接続を手動で設定するかまたは ...」を選択してください。



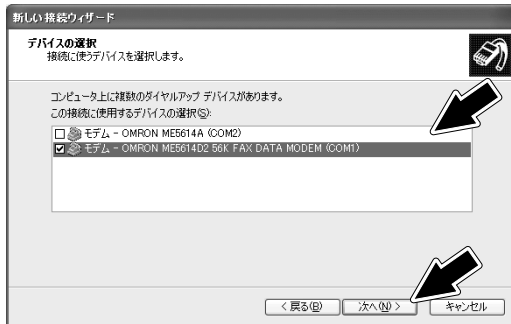
# インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

**6** 「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

Windows®2000... 「電話回線とモデムを使って...」を選択してください。

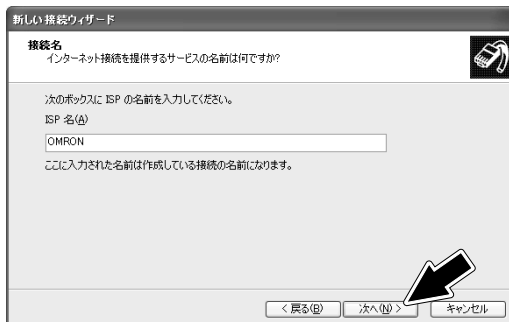


**7** デバイスの選択画面が出る場合には、「OMRON ME5614D2 (または「ME5614E2」) 56K FAX DATA MODEM」のみにチェックマークをつけて、「次へ」をクリックしてください。他のモデムにチェックが入っている場合は外してください。



**8** 「ISP 名」欄に「接続名」(プロバイダ名等、この例では「OMRON」)を入力し、「次へ」をクリックしてください。

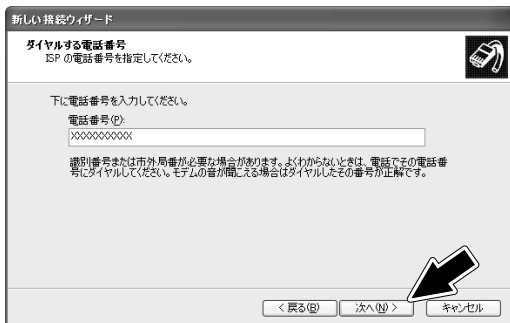
Windows®2000... この画面は手順 10 の次に表示されます。



# インターネットへ接続する (Windows®Server™2003/XP/2000)

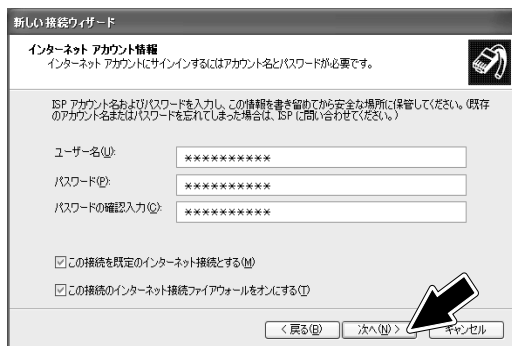
**9** 「電話番号」欄にプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、「次へ」をクリックしてください。

Windows®2000の方は、「市外局番」欄はブランク（空欄）にしてください。



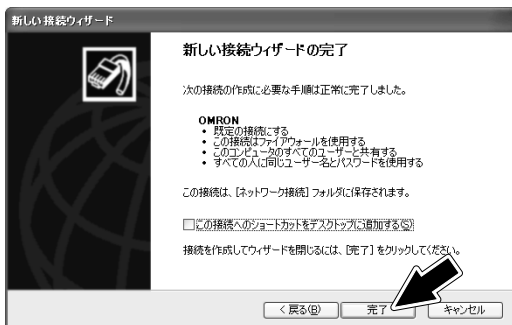
**10** 「ユーザー名」、[パスワード]、[パスワードの確認入力] を入力し、「次へ」をクリックしてください。

Windows®2000の方は「インターネットメールアカウントの設定」画面が表示されます。「いいえ」を選択し、「次へ」をクリックしてください。



**11** 「完了」をクリックしてウィザードを終了してください。

Windows®2000の方は「今すぐインターネットに接続する...」のチェックを外してください。



# インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

12

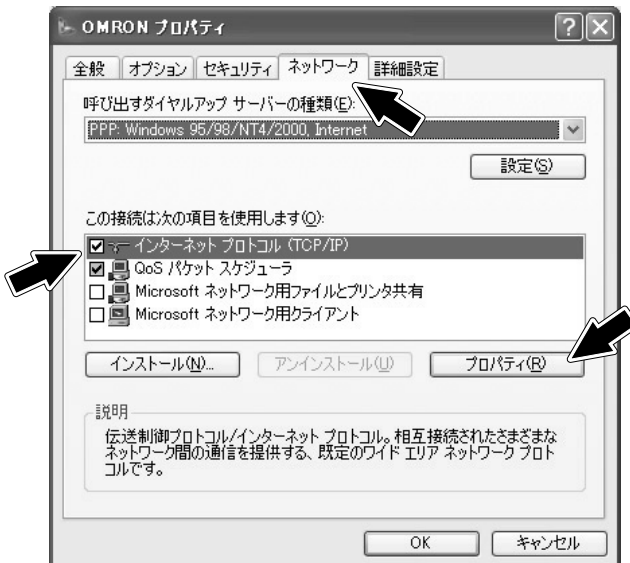
「OMRONへ接続」画面が表示された場合は、「プロパティ」をクリックし、13へ進んでください。または、「ネットワーク接続」画面に、新しく追加された「OMRON」アイコンを選択し、「ファイル」→「プロパティ」をクリックしてください。



13

「OMRON のプロパティ」画面が開きますので「ネットワーク」タブをクリックしてください。

「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。





## 14

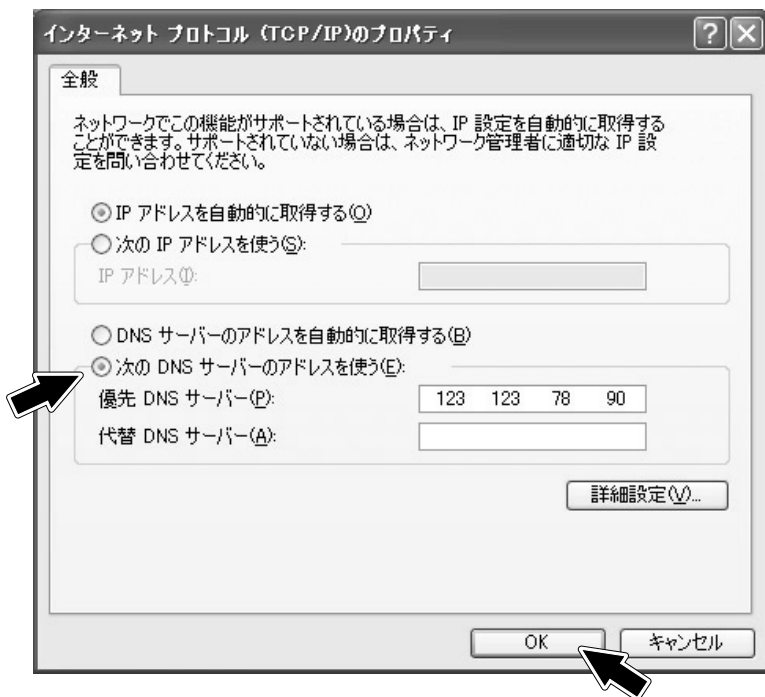
「次の DNS サーバのアドレスを使う」にチェックし、「優先 DNS サーバー」にプロバイダから与えられたアドレス（64 ページのプロバイダ情報参照 例：123.123.78.90）の入力が済んだら「OK」をクリックしてください。

プロバイダから DNS アドレスを提供されない場合は、「DNS サーバのアドレスを自動的に取得する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

「プロパティ」画面の「OK」をクリックしてください。

デスクトップ画面に戻ります。「ネットワーク接続」の設定が完了しました。

「OMRON へ接続」画面に戻ったら、P89 2 のユーザ名の確認へ進んでください。



## ◇ STEP3 インターネットへ接続する

インターネットへ接続するためにはホームページを閲覧するためのブラウザソフトがインストールされている必要があります。ここではブラウザソフトとしてインターネットエクスプローラ 6.0 (以下 IE6.0) を使用します。Windows® Server™2003/XP の画面で説明しています。

**1** 「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワーク接続」をダブルクリックしてください。Windows®2000 の方は「スタート」→「設定」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックしてください。P84 で作成した接続名「OMRON」アイコンが表示されます。

**2** 「OMRON」アイコンをダブルクリックしてください。「ユーザー名 (プロバイダから通知されたユーザID)」と「パスワード」が入っていることを確認してください。入力を確認したら「ダイヤル」をクリックしてください。すると、接続が開始されます。接続ができない場合は P130 ~ 「●お困りのときには」をご参照ください。



### まめ知識

- ・「次のユーザーが接続するとき使用するために、このユーザー名とパスワードを保存する」をチェックすると、再接続の際、パスワードを入力する手間がなくなります。
- ・パスワードは「\*」で表示されます。実際のパスワード文字数より多く表示されます。




### ●エラーメッセージが表示される

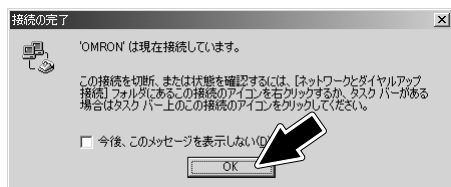
『発信音がありませんでした』『発信音が聞こえません』⇒P131 参照

『リモートコンピュータが応答しませんでした』『ダイヤル先のコンピュータが応答しません。...』⇒P132 参照

『ユーザ名またはパスワード、あるいはその両方が無効なため、このドメインにアクセスできません』『ダイヤル先のコンピュータはダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。...』⇒P132 参照

# インターネットへ接続する (Windows®Server™2003/XP/2000)

**3** プロバイダに接続されると、接続の完了ダイアログが表示されますので「OK」をクリックしてください。また、画面右下にあるタスクバーにダイヤルアップアイコン（のマーク）が表示されます。



**4** プロバイダへの接続が完了したら、デスクトップ画面にあるIE6.0アイコンをダブルクリックしてください。ブラウザ（この例ではIE6.0）が起動します。（デスクトップ画面にない場合は、「スタート」→「インターネット」をクリックしてください。）


インターネットエクスプローラのアドレス欄に「<http://www.omron.co.jp/ped-j/index.html>」と入力してください。オムロン株式会社周辺機器事業部のホームページが表示されます。



## 留意事項

- WWW ブラウザソフトの操作は、ソフトの取扱説明書などを参照してください。

## インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

- 5 IE6.0 を終了します。  
「ファイル」メニューの中から「閉じる」を選択してください。
- 6 電話回線を切断します。  
デスクトップ画面右下にあるタスクバーに格納されているダイヤルアップアイコン  をダブルクリックしてください。  
「OMRON の状態」画面が表示されます。
- 7 「切断」をクリックしてください。「OMRON への切断を終了しますか？」というメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

### 留意事項

- 上記5項でIE6.0を終了しただけでは、アクセスポイントへの電話は切断されません。電話がつながった状態が続き、電話料金が加算されます。必ず上記7項の電話回線の切断を実行してください。

# セットアップをする (WindowsNT<sup>®</sup>4.0)

## ●セットアップをする...WindowsNT<sup>®</sup>4.0

### 「ドライバ(INFファイル)」のインストール

前章の「準備する」の手順に従って、モデムとパソコンを接続し、電話回線との接続ができれば、「ドライバ(INFファイル)」をパソコンにインストール(組込み)します。そのとき、ご使用のパソコンの種類に対応した事前準備が必要です。

## ◇パソコンの通信ポートを設定する

パソコンとモデム間でデータの送受信をするための通信ポートの設定は各インターネット接続ソフトまたは通信ソフト上で行います。

インターネット接続ソフトまたは通信ソフトのインストール後に設定方法をご覧になり、設定してください。

## ◇プロバイダ情報やソフトウェアを用意する

### ●プロバイダ情報

インターネットに接続するには、加入されたプロバイダから与えられた次の情報が必要です。設定の際に必要になりますのでお手元に置いておいてください。

- ①ドメイン・ネーム(例:XXX.XXXXXX.or.jp)
- ②ドメイン・ネーム・サーバーIPアドレス(例:123.123.78.90)
- ③接続アカウント(例:umw11122)
- ④接続パスワード(例:DdcjHbkk)
- ⑤アクセスポイントの電話番号

プロバイダの通信方式がV.90であるかご確認ください。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。プロバイダにまだご加入でない場合は、市販の書籍などを参考にしてお加入ください。

### ●インターネット接続ソフトウェア

Windows<sup>®</sup>95やWindowsNT<sup>®</sup>に標準で装備されている「ダイヤルアップネットワーク」を使用します。インストールされていない場合は、お手持ちのWindowsNT<sup>®</sup>のシステムCD-ROMからインストールしてください。

インターネット接続しない方は不要です。

# ドライバをインストールする (WindowsNT®4.0)

## ●ドライバをインストールする...WindowsNT®4.0

本モデムの「ドライバ(INFファイル)」は添付CD-ROMに入っています。

「ドライバ(INFファイル)」のインストールが済むと電話回線で使用することができます。

### 留意事項

- WindowsNT®はシリアルポート1つに対して、1つの通信機器しか接続できません。本製品を接続するポートにモデム等がインストールされている場合は削除してください。
- 画面はME5614D2を例にしています。

**1** パソコンの電源をONし、「スタート」メニューの中の「設定」から「コントロールパネル」をクリックしてください。「コントロールパネル」が表示されます。

**2** 「モデム」アイコンをダブルクリックし、「モデムのプロパティ」を開いてください。「モデムのプロパティ」画面が表示されます。「追加」をクリックしてください。

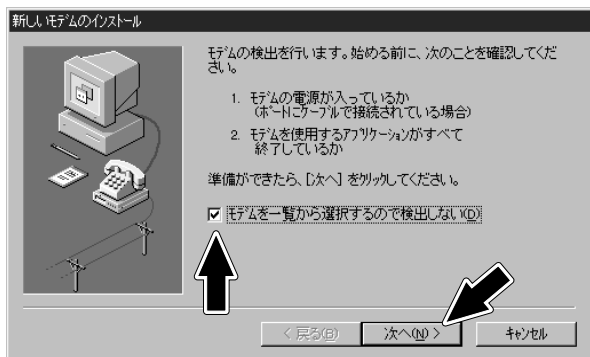


### 参照

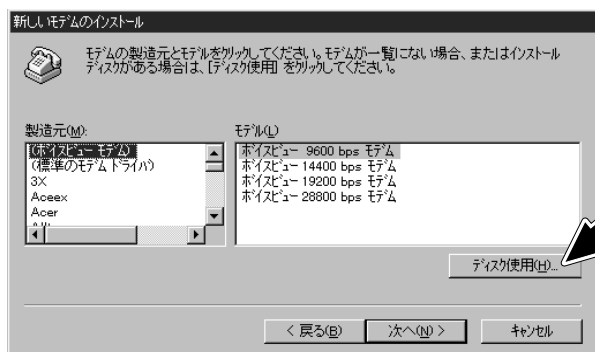
モデムがインストールされていない場合は、「モデムのプロパティ」画面が表示されず、「新しいモデムのインストール」画面が開きます。そのときは、手順3の「新しいモデムのインストール」をご覧ください。

# ドライバをインストールする (WindowsNT® 4.0)

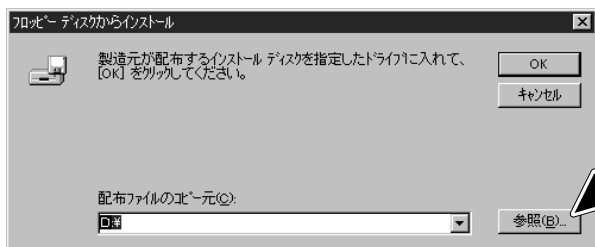
- 3** 「新しいモデムのインストール」画面が表示されます。「モデムを一覧から選択するので検出しない」にチェックし、「次へ」をクリックしてください。



- 4** 「新しいモデムのインストール」画面が表示されますので、「ディスク使用」をクリックしてください。



- 5** 「フロッピーディスクからのインストール」画面が表示されますので、付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、「参照」をクリックしてください。

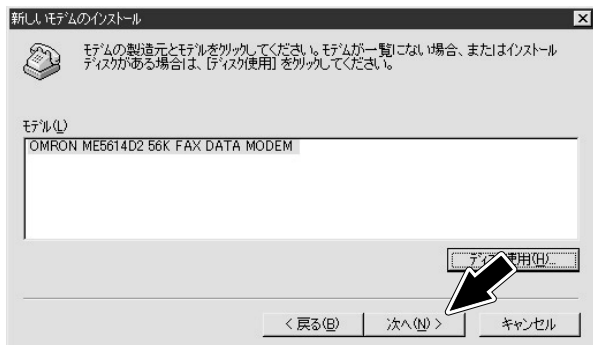


- 6** 「ファイルを見つけます」画面が表示されますので、ファイルの場所を「CD-ROMドライブ」(この例ではドライブD)を選択してください。「Driver」→「Me5614d2」(または「Me5614e2」)→「WinNT」の順にダブルクリックし、「ファイル名」に「Scdsvsnt.inf」と表示されたら「開く」をクリックしてください。

# ドライバをインストールする (WindowsNT<sup>®</sup>4.0)

7 「フロッピーディスクからインストール」画面に戻りますので「配布ファイルのコピー元」に「D: ¥Driver¥ME5614D2(またはME5614E2) ¥WinNT」を確認し、「OK」をクリックしてください。

8 「新しいモデムのインストール」画面が表示されましたら「モデル」欄からME5614D2(またはME5614E2)を選択し、「次へ」をクリックしてください。



9 「どのポートにインストールしますか」より、「選択したポート」にチェックし、ME5614D2(またはME5614E2)を接続している通信ポートを選択して、「次へ」をクリックしてください。次の画面で「完了」をクリックしてください。インストールが完了しました。



## 参照

「再起動する必要がありますので...」というメッセージが表示されましたら、「OK」をクリックしてください。

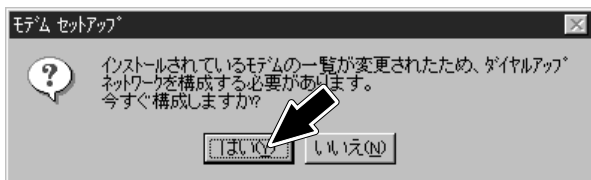


# ドライバをインストールする (WindowsNT<sup>®</sup> 4.0)

**10** 「モデムのプロパティ」で、8で選択したものが表示されていることを確認して「閉じる」をクリックしてください。

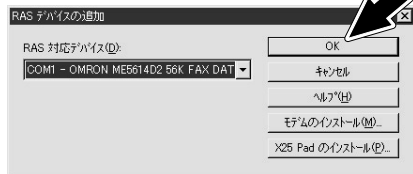


**11** 「モデムセットアップ」画面が表示されましたら、「はい」をクリックしてください。



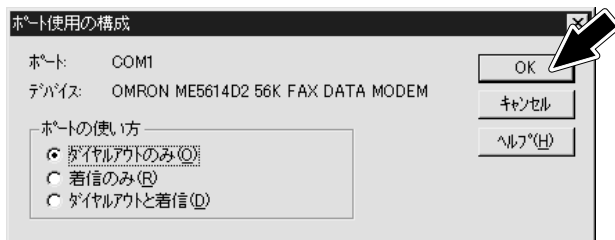
**12** 「リモートアクセスセットアップ」で、ME5614D2(またはME5614E2)を接続するポートに他のデバイスが表示された場合は「削除」をクリックして削除しておいてください。

**13** 「追加」をクリックし、ポート欄の中を設定します。手順8で選択した機器名を選択して「OK」をクリックしてください。

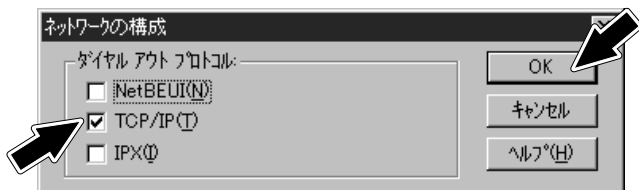


# ドライバをインストールする (WindowsNT®4.0)

**14** 「構成」をクリックし、「ダイヤルアウトのみ」をチェックし、「OK」をクリックしてください。



**15** 「ネットワーク」をクリックし、「TCP/IP」をチェックし、「OK」をクリックしてください。



**16** 「続行」をクリックしてください。続いて、「Microsoft®TCP/IPのプロパティ」画面が表示されることがあります。表示された場合は「OK」をクリックしてください。「ネットワーク設定の変更」画面が表示されましたら、「はい」をクリックし、WindowsNT®4.0を再起動してください。

以上で、ドライバのインストールが完了しました。

## ●インターネットへ接続する...WindowsNT<sup>®</sup>4.0

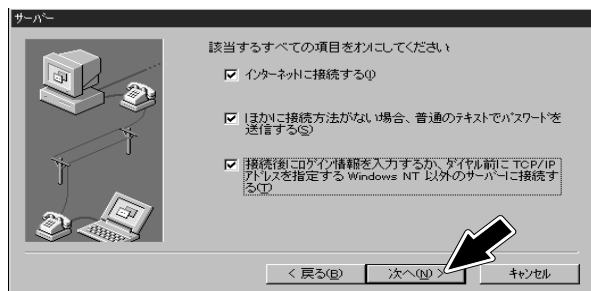
### ◇STEP1 ダイヤルアップネットワークを設定する

- 1** 「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。「新しい電話帳のエントリウィザード」画面が表示されましたら、契約したプロバイダ等の名前を入力し、「次へ」をクリックしてください。

#### 参照

今までに接続先を設定されていた場合は、「ダイヤルアップネットワーク」画面が開きますので「新規」をクリックしてください。

- 2** 「サーバー」画面が表示されましたら、すべての項目にチェックし、「次へ」をクリックしてください。



- 3** 「電話番号」画面が表示されましたら、契約したプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、「次へ」をクリックしてください。

- 4** 「シリアル回線プロトコル」画面が表示されましたら、「ポイントツーポイントプロトコル(PPP) (P)」へチェックし、「次へ」をクリックしてください。

- 5** 「ログイン スクリプト」画面が表示されましたら、なしにチェックし、「次へ」をクリックしてください。

- 6** 「IPアドレス」画面が表示されましたら、必要に応じてIPアドレスを入力し、「次へ」をクリックしてください。

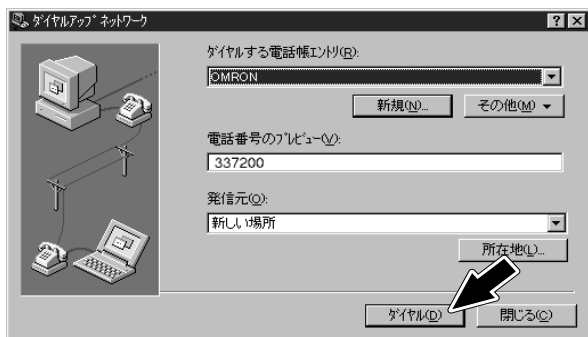
- 7** 「ネームサーバーアドレス」画面が表示されましたらプロバイダより通知されたDNSサーバーのIPアドレスを入力し、「次へ」をクリックしてください。プロバイダからDNSアドレスを提供されていない場合は、そのまま「次へ」をクリックしてください。

- 8** 「新しい電話帳のエントリウィザード」画面が表示されましたら、「完了」をクリックしてください。以上で、ダイヤルアップネットワークの設定が完了しました。

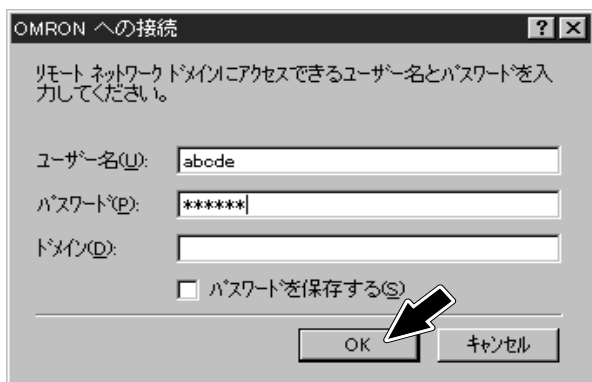
# インターネットへ接続する (WindowsNT<sup>®</sup>4.0)

## ◇STEP2 インターネットへ接続する

- 1** 「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」をダブルクリックしてください。「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示されますので、「ダイヤル」をクリックしてください。



- 2** 「ユーザ名」と「パスワード」を入力してください。(このとき大文字、小文字などを間違えずに入力してください。)入力を確認したら、「OK」をクリックしてください。すると接続先に発信します。



- 3** 接続されましたら、WWWブラウザソフトを起動してください。URLアドレスなどを指定することで、いろいろなホームページにアクセスすることができます。

WWWブラウザソフトの操作方法は、ソフトの取扱説明書等をご参照ください。

- 4** 回線を切断するときには、「コントロールパネル」の中の「ダイヤルアップモニタ」をダブルクリックし、「切断」をクリックしてください。

インターネットへの接続および電話回線との接続が切断されました。

## セットアップをする (Macintosh)

# ●セットアップをする...Macintosh

### 「ドライバ(CCLファイル)」のインストール

モデムとパソコン、電話回線の接続ができれば、「ドライバ(CCLファイル)」をパソコンにインストール(組込み)します。

## ◇パソコンの通信ポートを設定する

パソコンとモデム間でデータの送受信をするための通信ポートの設定は各接続ソフトウェアまたはブラウザソフト上で行います。接続ソフトウェアおよびブラウザソフトのインストール後に設定方法をご覧ください、設定してください。

## ◇プロバイダ情報やソフトウェアを用意する

### ●プロバイダ情報

加入されたプロバイダから与えられた次の情報が必要です。設定の際に必要なになりますのでお手元に置いておいてください。

- ①ドメイン・ネーム(例:XXX.XXXXXX.or.jp)
- ②ドメイン・ネーム・サーバーIPアドレス(例:123.123.78.90)
- ③接続アカウント(例:umw11122)
- ④接続パスワード(例:DdcjHbkk)
- ⑤アクセスポイントの電話番号

プロバイダにまだご加入でない場合は、市販の書籍などを参考にしてご加入ください。

インターネット接続しない方は不要です。

# ドライバ(CCL)をインストールする (Macintosh)

## ●ドライバ(CCLファイル)をインストールする...Macintosh

**1** パソコンのCD-ROMドライブに付属のCD-ROMを挿入してください。

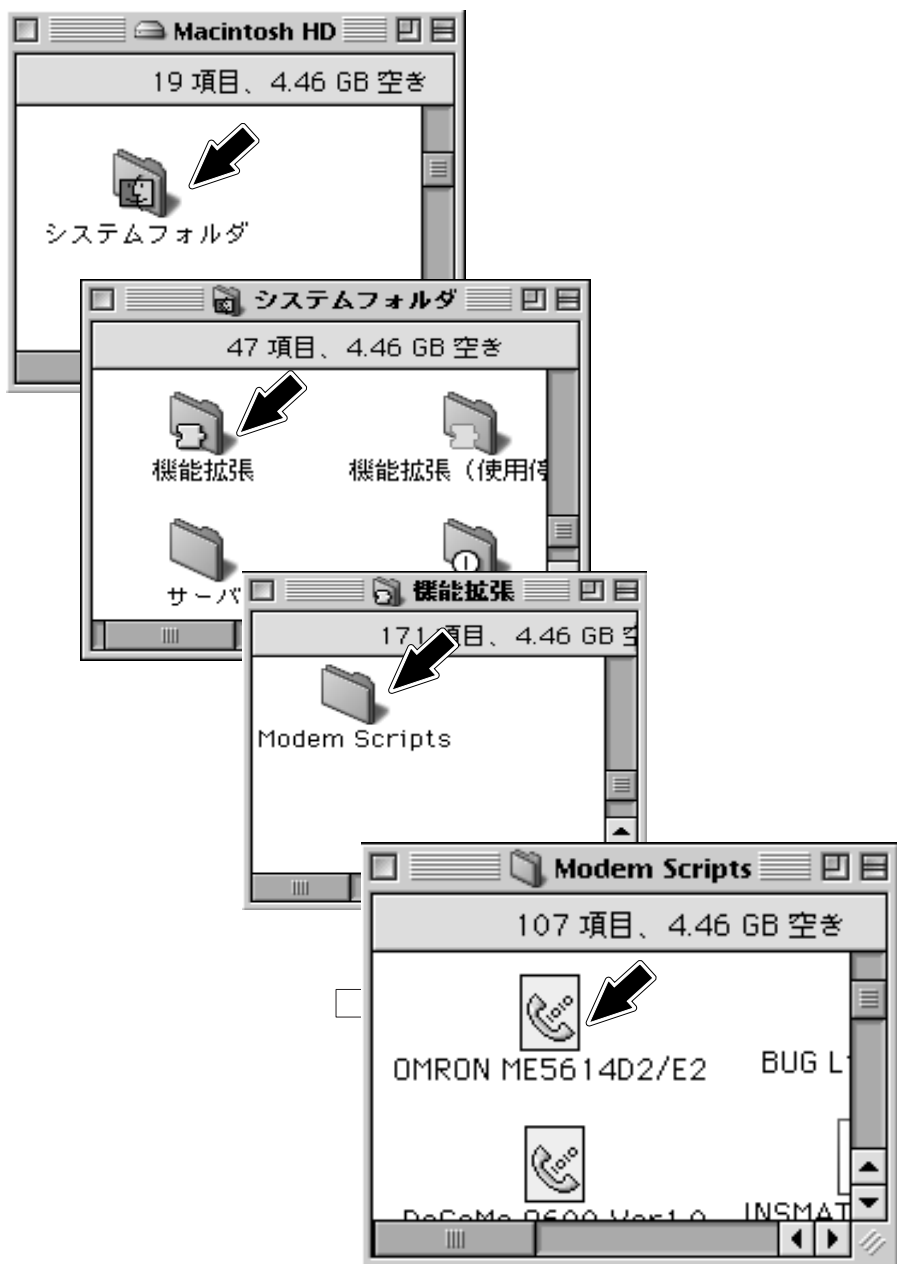
**2** デスクトップの「CD-ROMアイコン」をダブルクリックして開いてください。

デスクトップ上の  
CD-ROMアイコン



## ドライバ(CCL)をインストールする (Macintosh)

- 3** ドライバ(CCLファイル)「OMRON ME5614D2/E2」を「システムフォルダ」の中の「機能拡張」フォルダの中にある「ModemScripts」フォルダにコピーしてください。  
コピーが終了したら、CD-ROMを取り出してください。




## ●インターネットへ接続する...Macintosh

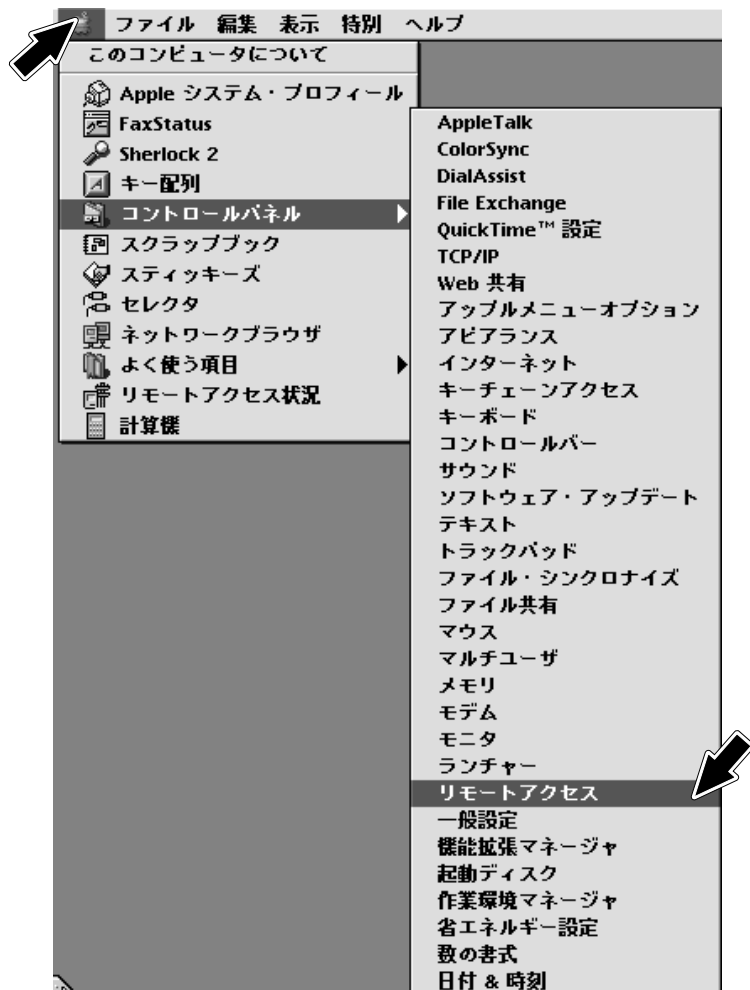
### ◇STEP 1 接続ソフトウェアを設定する

以下は、「リモートアクセス」画面を参照して説明しています。

画面の表示が異なることがありますが、その場合は画面の指示に従ってください。

#### 2.1 「リモートアクセス」または「PPP」を設定する

- 1  メニューをクリックしてプルダウンメニューから「コントロールパネル」→「リモートアクセス」または「PPP」を選択してください。





# インターネットへ接続する (Macintosh)

**2** 「リモートアクセス」または「PPP」画面の各項目を設定してください。

- 「登録利用者」をチェックしてください。
  - 名前 : プロバイダから与えられたID
  - パスワード : プロバイダから与えられたパスワード入力すると・マークが表示され、実際の文字は表示されません。入力の際は、大文字、小文字の区別に注意してください。
  - 「パスワードを保存」をチェックしてください。
  - 電話番号 : アクセスポイントの電話番号を入力してください。
- 上記の設定が済んだら「オプション」をクリックしてください。



**3** 「オプション」画面が開きますので、「再ダイヤル」タブの項目を設定してください。必要に応じて設定し、設定が完了したら、「接続」タブをクリックしてください。

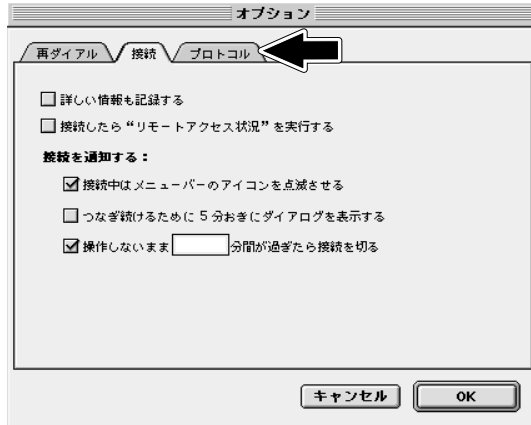


# インターネットへ接続する (Macintosh)

4

「接続」タブが開きますので、以下を参考に設定してください。

- ・「接続中はメニューバーのアイコンを点滅させる」をチェックすると、接続中にデスクトップメニューバーの右に表示される「リモートアクセス」アイコンが点滅します。
- ・「操作しないまま  分間が過ぎたら接続を切る」をチェックし数値を入力すると、その数値の時間、操作がない場合、接続が解除されます。設定が完了したら、「プロトコル」タブをクリックしてください。



5

「プロトコル」タブが開きますので「モデム内蔵のエラー訂正と圧縮を使う」と「TCPヘッダ圧縮を使う」をチェックしてください。「TCP/IP利用のアプリケーション起動時…」にチェックすると、wwwブラウザやメールソフトを起動したときに、アクセスポイントへの接続を開始します。

設定が完了したら、「OK」をクリックしてください。「リモートアクセス」または「PPP」画面に戻ります。



# インターネットへ接続する (Macintosh)

## 2.2 「TCP/IP」を設定する。

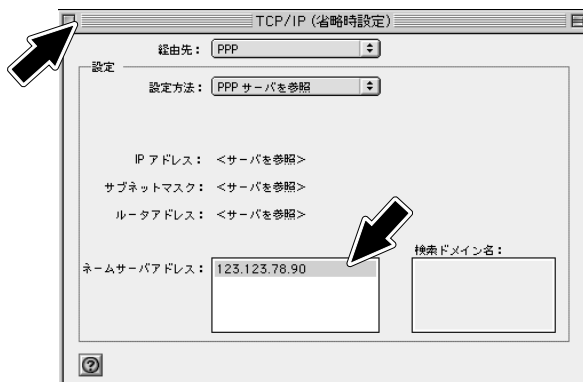
**1** 「リモートアクセス」または「PPP」を開いたまま、デスクトップメニューバーの「リモートアクセス」または「PPP」をクリックしプルダウンメニューから「TCP/IP」を選択してください。



**2** 「TCP/IP」画面が開きますので、以下の項目を設定してください。

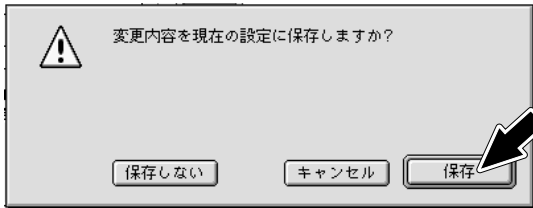
- 経由先 : 「PPP」
- 設定方法 : 「PPPサーバを参照」
- ネームサーバアドレス : プロバイダから与えられたドメインネームサーバアドレス (DNS)を入力してください。  
プロバイダからDNSアドレスを提供されていない場合は、「ネームサーバアドレス」には何も入力しないでください。

設定が完了したら、 ボタンをクリックしてください。



## インターネットへ接続する (Macintosh)

- 3** 「変更内容を現在の設定に保存しますか?」と聞いてきた場合は「保存」をクリックしてください。「リモートアクセス」または「PPP」画面に戻ります。



- 4** 「モデム」を設定します。


- 1) 「リモートアクセス」または「PPP」を開いたまま、デスクトップメニューバーの「リモートアクセス」または「PPP」をクリックしてプルダウンメニューから「モデム」をクリックしてください。




# インターネットへ接続する (Macintosh)

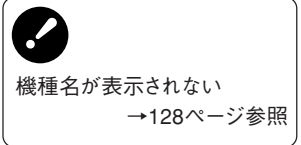
2)「モデム」画面が開きますので以下の項目を設定してください。

- ・経由先 : モデムの接続されているポート、通常はモデムポート
- ・モデム : OMRON ME5614D2/E2(プルダウンリストから選択)
- ・ダイヤル : ご使用の回線の種類にあわせます。

設定が完了したら、 ボタンをクリックしてください。



- 3) 「変更内容を現在の設定に保存しますか?」と聞いてきますので「保存」をクリックしてください。「リモートアクセス」または「PPP」画面に戻ります。
- 4) 「リモートアクセス」または「PPP」画面の左上の  ボタンをクリックし、「保存」をクリックしてください。

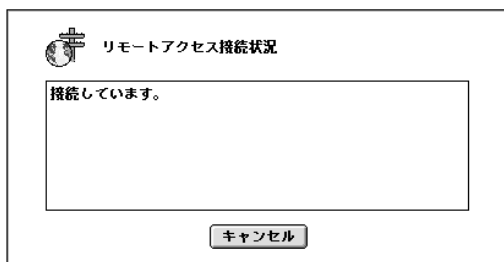


# インターネットへ接続する (Macintosh)

## ◇STEP 2 インターネットへ接続する

インターネットへ接続するためにはホームページを閲覧するためのブラウザソフトがインストールされている必要があります。ここではブラウザソフトとしてインターネットエクスプローラを使用します。

**1** インターネットエクスプローラを起動してください。「リモートアクセス」または「PPP」が起動しアクセスポイントへの接続が開始されます。



- ・ エラーメッセージが表示され、接続できない  
→127ページ参照
- ・ 接続スピードが遅い  
→126ページ参照
- ・ ホームページの表示が遅い  
→126ページ参照

**2** アクセスポイントへの接続が完了すると、インターネットエクスプローラのメイン画面にホームページが表示されます。




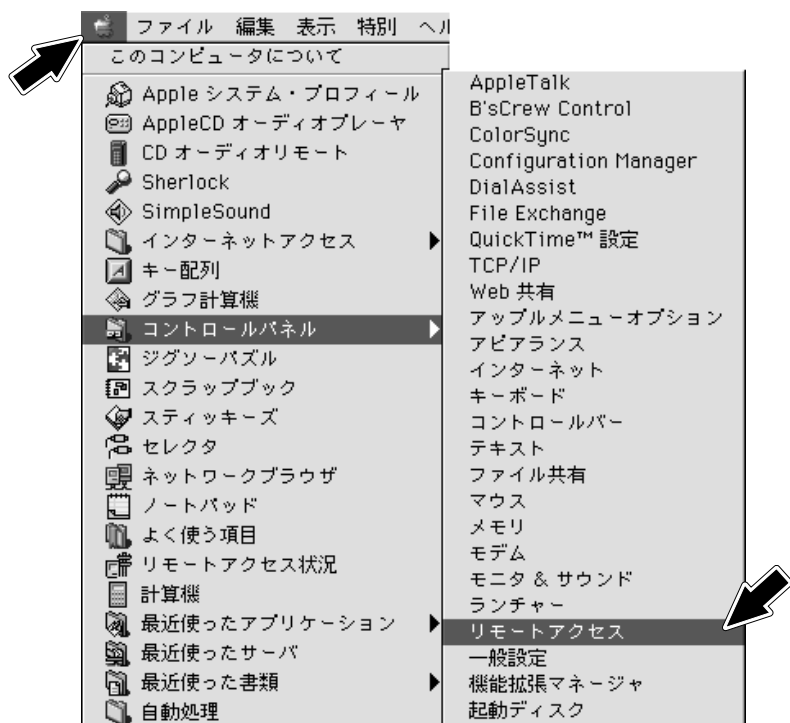
- ・ エラーメッセージが表示され、ホームページが開けない  
→127ページ参照

## インターネットへ接続する (Macintosh)

**3** メニューバーの「ファイル」をクリックし「終了」をクリックするとインターネットエクスプローラを終了することができます。

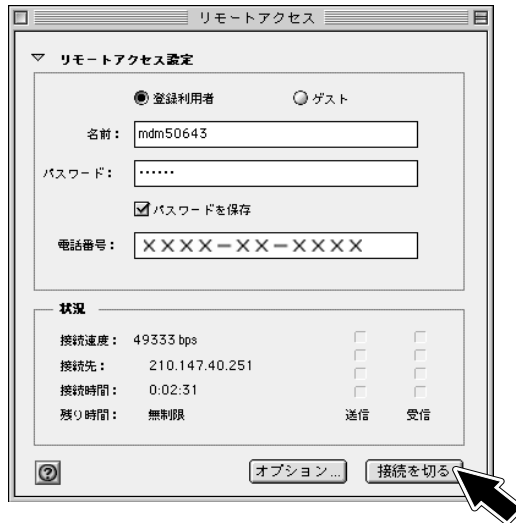
**4** アクセスポイントへの接続を終了します。

- 1)  メニューをクリックしてプルダウンメニューから「コントロールパネル」→「リモートアクセス」または「PPP」を選択してください。



# インターネットへ接続する (Macintosh)

- 2) 接続中の「リモートアクセス」または「PPP」画面が開きますので「接続を切る」または「解除」をクリックしてください。  
これでプロバイダへの切断が完了しました。



## 留意事項

- インターネットエクスプローラを終了しても、アクセスポイントへの接続は切断されません。必ずコントロールパネルの「リモートアクセス」または「PPP」を開き「接続を切る」または「解除」をクリックして、アクセスポイントへの接続を切断してください。



# ●ATコマンドの基本

ATコマンドは米国ヘイズ社によって開発されたモデム用コマンドで、AT○○○とパソコンより入力することにより、通信することができます。

## ■ AT コマンドとは

ATコマンドでは、端末がモデムに送る命令を「コマンド」、命令に対してモデムから端末に返される文字列を「リザルトコード」と呼びます。ATコマンドは必ずATという文字で始め、最後にリターンコードを入力します。(A/を除く)。ATに続くコマンドは1行に複数入力することができます。大文字(AT)と小文字(at)の両方が使えます。(ただし、大文字と小文字の混在はできません)

ATコマンドのフォーマットは次のようになります。

A	T	コマンド	パラメータ	コマンド	パラメータ	コマンド	…	CR	LF
---	---	------	-------	------	-------	------	---	----	----

最大40(ATを含め42)文字

※ LF コードは省略可能

リザルトコードには単語と数字の形式があり、次のようなフォーマットになります。

CR	LF	リザルトコード (単語)	CR	LF
----	----	--------------	----	----

リザルトコード (数字)	CR
--------------	----

## ■ データフォーマットの自動認識

ATコマンドでは、モデムは端末(パソコン、ワープロ等)から送られてくるコマンド先頭のATの2文字を検出することにより、端末の通信速度とデータフォーマットを自動的に認識します。

認識したデータフォーマットは不揮発メモリに保存可能です。

【例】 AT

### 留意事項

- 本モデムでは、通信速度、データフォーマットの初期値は「通信速度＝9600bps」、「データ長＝8ビット」、「パリティ＝なし」になっています。キャラクタ長は10ビット固定です。不揮発メモリに保存する場合は、AT&W と入力します。

## ■ コマンドリスト

### ● AT コマンド

● n は数値、mm は文字列を示します。

● パラメータ解説のデフォルト値は\*、保存可能コマンド・レジスタは#で示しています。

コマンド (n は数値、 mm は文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味 (参考)
A/	コマンド再実行		
ATA	強制着信		
# ATBn	通信規格選択:ITU-T 規格、 BELL 規格の選択	* 0  1	300bps 時に ITU-T V.21 規格及び 1200bps 以上時に ITU-T V.22 規格選択  300bps時にBELL 103規格及び 1200bps 以上時に BELL 212A 規格選択
ATDmm	ダイヤル:モデムから電話回 線にダイヤル信号を送りま す	0~9 # *T P S=n W @ ! , ; L	電話番号 トーンダイヤル時のみ有効 トーン (プッシュ) 式でダイヤル パルス式でダイヤル AT&Z コマンドでモデム内に記憶して いる電話番号にダイヤル ダイヤルトーンの検出 無音の検出 フッキング ポーズ (時間は S8 レジスタで設定) ダイヤル後コマンドモードに戻る 直前にダイヤルした番号に再ダイヤル
# ATEn	コマンドエコー:モデムに入 力した文字列を端末にエ コーバックさせます。	0 *1	なし あり
# ATHn	回線制御:電話回線のオン、 オフを制御します	0 1	オンフック オフフック
ATIn	プロダクト ID 表示	0 1 2	プロダクトコード表示 ROM チェックサム表示 ROM チェックサム検証
ATLn	スピーカ音量	0,1 *2 3	小 中 大

## AT コマンドの基本

	コマンド (n は数値、 mm は文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味 (参考)
#	ATMn	モニタスピーカ動作設定	0 * 1 2 3	常時オフ 通信開始までオン 常時オン ダイヤリング時オフ、以降 1 と同じ
	ATOn	オンラインモードへの復帰、 強制リトレイン:エスケープ モードからの動作を設定	0 1	オンラインモードへの復帰 強制リトレインによるオンラインモ ードへの復帰
#	ATP	パルスダイヤル設定		
#	ATQn	リザルトコード有無設定	* 0 1	あり なし
	ATS <sub>n</sub> =x ATS <sub>n</sub> ? ATS <sub>n</sub> ?	Sレジスタの設定:Sレジス タの参照・設定を行う	n x ?	レジスタ番号 設定値 内容問い合わせ
#	ATT	トーン (プッシュ) ダイヤル 設定		
#	ATVn	リザルトコード表示形式: コマンド入力した時の実行 結果を知らせる形式の設定	0 * 1	数字形式 単語形式
#	ATWn	接続完了時の通信速度表示 形式の設定	0 * 1 2	端末 - モデム間速度表示 モデム - モデム間速度、エラー訂正プ ロトコル モデム - モデム間速度表示
#	ATXn	通信速度表示、ビジー・ダイ ヤルトーンの検出:接続完了 時の通信速度表示の有無、ビ ジー(話中音)・ダイヤルト ーン(発信音)の検出	0 * 1 2 3 4	速度表示なし、トーン検出なし 速度表示あり、トーン検出なし 速度表示あり、ダイヤルトーンを検出 速度表示あり、ビジートーンを検出 速度表示あり、ビジー・ダイヤルト ーン共に検出
	ATZn	ソフトウェアリセット	0 1	現在値エリアのリセット、プロファ イル0の読み込み 現在値エリアのリセット、プロファ イル1の読み込み
#	AT&Cn	CD 信号制御	0 * 1	常時 ON 相手モデムのキャリアに従う

# AT コマンドの基本

	コマンド (n は数値、 mm は文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味 (参考)
#	AT&Dn	ER 信号制御	0 1 * 2 3	常時 ON ER ON → OFF でエスケープ ER ON → OFF で回線断 ER ON → OFF でソフトウェアリセット
	AT&F	現在値エリアの設定を工場出荷時設定に戻す		工場出荷時設定で現在値エリアを初期化
#	AT&Kn	フロー制御	0 * 3 4 5	フロー制御なし RS/CS フロー制御 XON/XOFF フロー制御 トランスペアレントな XON/XOFF フロー制御
	AT&Pn	パルスダイヤル速度	* 1 3	10PPS 20PPS
#	AT&Sn	DR 信号制御	* 0 1	常時 ON シーケンスに従う
	AT&V	ステータス表示		
	AT&Wn	現在値エリアの内容を不揮発メモリーに保存	0 1	プロファイル0として保存 プロファイル1として保存
#	AT&Yn	電源オン時の設定	* 0 1	電源オン時プロファイル0設定をロード 電源オン時プロファイル1設定をロード
	AT&Zn=x	短縮ダイヤルメモリーに保存:電話番号を不揮発メモリーに保存		n:0 ~ 3 (短縮ダイヤル) x:電話番号 (30桁まで登録可能)
	AT) Mn	MNP10 の設定	* 0 1	MNP10 使用しない MNP10 使用する
	AT¥Bn	ブレーク信号送出	n=1 ~ 9	n * 100ms のブレーク信号送出 初期値 = 3

## AT コマンドの基本

	コマンド (n は数値、 mm は文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味 (参考)
#	AT¥Kn	ブレーク信号制御 ① モデムが DTE からブレーク信号を受信したとき	0, 2, 4  1  3  * 5	ブレークを相手モデムに送信せず、エスケープモードに入る 送受信バッファをクリアして、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータを飛び越して、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータと同様にブレーク信号をバッファリング
		② モデムが AT¥Bn コマンドを実行したとき	0, 1  2, 3  4, * 5	送受信バッファをクリアして、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータを飛び越して、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータと同様にブレーク信号をバッファリング
		③ 非エラー訂正接続中に相手モデムからブレーク信号を受信したとき	0, 1  2, 3  4, * 5	送受信バッファをクリアして、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータを飛び越して、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータと同様にブレーク信号をバッファリング
#	AT¥Nn	エラー訂正設定	0 1 2 * 3 4 5	ノーマルモード ダイレクトモード V.42 リライアブルモード V.42 オートリライアブルモード LAPM リライアブルモード MNP リライアブルモード
#	AT%Cn	データ圧縮設定	0 1 2 * 3	データ圧縮なし MNP5 圧縮 V.42bis 圧縮 V.42bis、MNP5 自動選択
#	AT%En	自動リトレイン、フォールバック・フォールフォワード設定	0 1 * 2	なし リトレインあり フォールバック・フォールフォワードあり

## AT コマンドの基本

コマンド (n は数値、 mm は文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味 (参考)
# AT+MS =a,b,c,d,e,f	通信規格の選択 (a,b,c,d,e,fはパラメータ 数値をいれます。)	a= V21 V22 V22B V32 V32B  V34  * V90	300bps (V.21) 1200 bps (V.22) 1200,2400bps (V.22bis) 4800,9600bps (V.32) 4800,7200,9600,12000, 14400bps (V.32bis)  2400,4800,7200,9600,12000,14400, 16800,19200,21600,24000,26400, 28800,31200,33600bps (V.34)  28000,29333,30667,32000,33333, 34667,36000,37333,38667,40000, 41333,42667,45333,46667,48000, 49333,50667,52000,53333,54667, 56000bps (V.90)
		B103 B212	300bps (Bell 103) 1200bps (Bell 212A)
		b= 0 * 1	自動速度応答なし 自動速度応答あり
		c= 300 ~ 33600	送信最低通信速度を指定 (初期値) =300bps
		d= 300 ~ 33600	送信最高通信速度を指定 (初期値) =33600bps
		e= 300 ~ 56000	受信最低通信速度を指定 (初期値) =300bps
		f= 300 ~ 56000	受信最高通信速度を指定 (初期値) =56000bps

# AT コマンドの基本

## ● リザルトコード

AT コマンドを入力したとき、その実行結果を知らせるコードです。

数字形式	単語形式	意味
0	OK	正常実行
1	CONNECT	接続完了
2	RING	呼び出し検出
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	コマンドエラー
5	CONNECT 1200	1200bps 接続
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーン未検出
7	BUSY	話中音検出
8	NO ANSWER	無音未検出
10	CONNECT 2400	2400bps 接続
11	CONNECT 4800	4800bps 接続
12	CONNECT 9600	9600bps 接続
13	CONNECT 7200	7200bps 接続
14	CONNECT 12000	12000bps 接続
15	CONNECT 14400	14400bps 接続
16	CONNECT 19200	19200bps 接続
17	CONNECT 38400	38400bps 接続
18	CONNECT 57600	57600bps 接続
19	CONNECT 115200	115200bps 接続
24	DELAYED	リダイヤル制限中
32	BLACKLISTED	リダイヤル制限中
40	+MRR:300	300bps キャリア検出
46	+MRR:1200	1200bps キャリア検出
47	+MRR:2400	2400bps キャリア検出
48	+MRR:4800	4800bps キャリア検出
49	+MRR:7200	7200bps キャリア検出
50	+MRR:9600	9600bps キャリア検出
51	+MRR:12000	12000bps キャリア検出
52	+MRR:14400	14400bps キャリア検出
53	+MRR:16800	16800bps キャリア検出
54	+MRR:19200	19200bps キャリア検出
55	+MRR:21600	21600bps キャリア検出
56	+MRR:24000	24000bps キャリア検出
57	+MRR:26400	26400bps キャリア検出
58	+MRR:28800	28800bps キャリア検出
59	CONNECT 16800	16800bps 接続
61	CONNECT 21600	21600bps 接続
62	CONNECT 24000	24000bps 接続

# AT コマンドの基本

数字形式	単語形式	意味
63	CONNECT 26400	26400bps 接続
64	CONNECT 28800	28800bps 接続
66	+DR:ALT	MNP5 接続
67	+DR:V42B	V.42bis 接続
69	+DR:NONE	非圧縮モード接続
70	+ER:NONE	非エラー訂正モード接続
77	+ER:LAPM	LAPM 接続
78	+MRR:31200	31200bps キャリア検出
79	+MRR:33600	33600bps キャリア検出
80	+ER:ALT	MNP4 接続
81	+ER:ALT-CELLULAR	MNP10 接続
83	HAND SET IN USE	電話機使用中
84	CONNECT 33600	33600bps 接続
91	CONNECT 31200	31200bps 接続
134	+MCR:B103	BELL 103 で接続
135	+MCR:B212	BELL 212A で接続
136	+MCR:V21	ITU-T V21 で接続
137	+MCR:V22	ITU-T V22 で接続
138	+MCR:V22B	ITU-T V22bis で接続
140	+MCR:V32	ITU-T V32 で接続
141	+MCR:V32B	ITU-T V32bis で接続
142	+MCR:V34	ITU-T V34 で接続
145	+MCR:V90	ITU-T V90 で接続
150	+MRR: 32000	32000bps キャリア検出
151	+MRR: 34000	34000bps キャリア検出
152	+MRR: 36000	36000bps キャリア検出
153	+MRR: 38000	38000bps キャリア検出
154	+MRR: 40000	40000bps キャリア検出
155	+MRR: 42000	42000bps キャリア検出
156	+MRR: 44000	44000bps キャリア検出
157	+MRR: 46000	46000bps キャリア検出
158	+MRR: 48000	48000bps キャリア検出
159	+MRR: 50000	50000bps キャリア検出
160	+MRR: 52000	52000bps キャリア検出
161	+MRR: 54000	54000bps キャリア検出
162	+MRR: 56000	56000bps キャリア検出



# AT コマンドの基本

数字形式	単語形式	意味
165	CONNECT 32000	32000bps 接続
166	CONNECT 34000	34000bps 接続
167	CONNECT 36000	36000bps 接続
168	CONNECT 38000	38000bps 接続
169	CONNECT 40000	40000bps 接続
170	CONNECT 42000	42000bps 接続
171	CONNECT 44000	44000bps 接続
172	CONNECT 46000	46000bps 接続
173	CONNECT 48000	48000bps 接続
174	CONNECT 50000	50000bps 接続
175	CONNECT 52000	52000bps 接続
176	CONNECT 54000	54000bps 接続
177	CONNECT 56000	56000bps 接続
180	CONNECT 28000	28800bps 接続
181	CONNECT 29333	29333bps 接続
182	CONNECT 30667	30667bps 接続
183	CONNECT 33333	33333bps 接続
184	CONNECT 34667	34667bps 接続
185	CONNECT 37333	37333bps 接続
186	CONNECT 38667	38667bps 接続
187	CONNECT 41333	41333bps 接続
188	CONNECT 42667	42667bps 接続
189	CONNECT 45333	45333bps 接続
190	CONNECT 46667	46667bps 接続
191	CONNECT 49333	49333bps 接続
192	CONNECT 50667	50667bps 接続
193	CONNECT 53333	53333bps 接続
194	CONNECT 54667	54667bps 接続
195	+MRR:28000	28000bps キャリア検出
196	+MRR:29333	29333bps キャリア検出
197	+MRR:30667	30667bps キャリア検出
198	+MRR:33333	33333bps キャリア検出
199	+MRR:34667	34667bps キャリア検出
200	+MRR:37333	37333bps キャリア検出
201	+MRR:38667	38667bps キャリア検出
202	+MRR:41333	41333bps キャリア検出
203	+MRR:42667	42667bps キャリア検出
204	+MRR:45333	45333bps キャリア検出
205	+MRR:46667	46667bps キャリア検出
206	+MRR:49333	49333bps キャリア検出
207	+MRR:50667	50667bps キャリア検出
208	+MRR:53333	53333bps キャリア検出
209	+MRR:54667	54667bps キャリア検出
+F4	FCERROR	

注：+MRR:の後には、以下の通り送信キャリア速度と受信キャリア速度が表示されます。  
+MRR:X,Y (X:送信キャリア速度、Y:受信キャリア速度)

## ● S レジスタ

レジスタ	設定値 (初期値)	機能
# S0	0 自動着信なし 1 ~ 55 (0)	自動着信 / 着信呼出回数の設定 自動着信するまでの呼出回数を設定します。 (単位:回)
S1	0 ~ 255	着信呼出回数のカウント モデムが呼出信号を受信したとき、その受信回数をカウントします。呼出信号を8秒間受信しないと0になります。(読み出し専用)
# S2	0 ~ 127 (43)	エスケープコードの設定 データ通信中、一時的にコマンド入力ができる状態にするためのエスケープコードを設定します。(10進のアスキーコード)
S3	0 ~ 127 (13)	CR コードの設定 コマンドの最後に入力するキャリッジリターンコードを設定します。(10進のアスキーコード)
S4	0 ~ 127 (10)	LF コードの設定 ラインフィードコードを設定します。画面を1行スクロール(改行)させるためのコードを設定します。(10進のアスキーコード)
S5	0 ~ 32、127 (8)	BS コードの設定 バックスペースコードを設定します。コマンドの入力ミスを訂正するためのコードを設定します。(10進のアスキーコード)
S6	4 固定 (設定不可)	ATX0、X1、X3 設定時のダイヤルまでの待ち時間設定 ATX0、X1、X3 設定時には、オフフックからダイヤルまでの待ち時間を設定します。(単位:秒)
S7	50 固定	オフフック制限タイム 通信開始までの待ち時間 オフフックから、このレジスタで設定された時間までに相手モデムのキャリアが検出されないと、“NO CARRIER”を表示し、オンフックします。
# S8	2 ~ 7 (2)	ダイヤルポーズ時間 ダイヤルオプションの“,”(カンマ)でダイヤル信号送出を休止する時間を設定します。(単位:秒)
# S9	1 ~ 255 (12)	キャリア認識時間 このレジスタで設定した時間以外相手モデムからのキャリアが検出できたとき、接続状態になります。(単位:1/10秒)
# S10	1 ~ 255 (14)	キャリア許容断時間 通信中にこのレジスタで設定した時間以上、相手モデムからキャリアがなかったとき、回線を切断します。このレジスタを255に設定した場合は、回線を切断しません。通信中によく回線が切れるときは、このレジスタの設定値を大きくしてください。(単位:1/10秒)
# S12	20 ~ 255 (50)	ガードタイム エスケープコードの前後のデータ送信を行わない時間を設定します。 (単位:1/50秒)
S25	0 ~ 255 (5)	ER 許容断時間 通信中に、このレジスタで設定された時間以上、ER信号がOFFになったとき、回線を切断します。(単位:1/100秒)
S30	0: アポートタイムなし 1 ~ 255 (0)	アポートタイム データの送信または受信が一定時間以上ないときに回線を切断するアポートタイムの時間を設定します。エラー訂正モードでは、データを送信または受信したときにこのタイムがリセットされます。また、非エラー訂正モードでは、データを送信したときにこのタイムがリセットされます。(単位:10秒)
S91	10 ~ 15 (15)	データ通信の送出レベル変更 詳細は5ページを参照してください。
S92	10 ~ 15 (15)	FAX通信の送出レベル変更 詳細は5ページを参照してください。

# ●お困りのときには

## ◇ Q & A

## Windows®Me/98/95/Macintoshの場合

### Q1 「新しいハードウェアが検出されませんでした」と表示されない

- (1) モデムの電源が入っていますか
- (2) パソコンに接続されています RS232C ケーブルは、ストレートタイプですか
- (3) パソコンによっては、BIOSでCOMポートが使用不可になっている場合があります。使用可能になるように設定してください。設定方法については、ご使用のパソコンメーカーにお問い合わせください。
- (4) Windows®Me/98/95のデスクトップ画面の「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリックして「システム」をダブルクリックしてください。  
「デバイスマネージャー」のタブをクリックし、表示されるアイコンの中から「ポート (COM/LPT)」をダブルクリックしてください。アイコンの下段に通信ポートが表示されます。  
接続されている通信ポートに、**(?)**、**(!)**、**(X)**の印が付いている場合は通信ポートが使用できません。  
「プロパティ」画面で、使用可能状態にしてください。詳細につきましては、ご使用のパソコンメーカーへ、お問い合わせください。



- (5) このモデムを利用したことがある場合は、モデム設定ファイルが残っている場

合があります。ファイルを削除してから、パソコンを再起動してください。

モデム設定ファイルの削除方法、123ページを参照

- (6) 上記手順でも表示されない場合は、手動インストール手順でインストールしてください。
  1. 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックしてください。
  2. 「モデム」をダブルクリックし、「追加」ボタンをクリックします。「新しいモデムのインストール」画面が出てきます。インストールするモデムの種類は「その他」を選択して「次へ」をクリックします。
  3. 「モデムを一覧から選択するため検出しない」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。
  4. 「ディスク使用」→「参照」をクリックします。「ドライブ」欄にてCD-ROMドライブ(例: D)を選択し、「フォルダ」欄にて「driver」→「me5614d2」(または「me5614e2」)→「win9x」または「winme」の順にダブルクリックしてください。「ファイル名」欄に「scdsvs9x.inf」または「scdsvsme.inf」が表示されますので「OK」をクリックしてください。
  5. 「OK」をクリックしてください。
  6. 「モデル」欄の「OMRON ME5614D2(またはME5614E2)」をクリックし「次へ」をクリックしてください。
  7. ME5614D2(またはME5614E2)が接続されている通信ポート(例: COM1)をクリックし、「次へ」をクリックしてください。
  8. 「ディスクの挿入」画面が表示される場合は、「ファイルのコピー元」欄に「D: ¥Driver¥ME5614D2¥Win9x」を入手し、「OK」をクリックしてください。(上記は入力例です。ご使用のCD-ROMドライブ、モデム、OSによって異なります。)
  9. 「完了」をクリックしてください。

## Q2. CD-ROMがわからない

Windows®Me/98/95のデスクトップ画面の「マイコンピュータ」をダブルクリックします。CD-ROM(D)が、CD-ROMドライブになります。(下記、例ではDドライブがCD-ROMドライブになります。)



## Q3. 詳細情報を開こうとすると、エラーメッセージが表示される

### エラー

モデムが応答しませんでした。正しく接続され電源が入っているか確認してください。内部モデムが正しく接続されている場合は、ポートの割り込み設定が正しいか確認してください。

ポートが開かれています

- (1) モデムの電源が入っていますか
- (2) パソコンに接続されていますRS232Cケーブルは、ストレートタイプですか
- (3) パソコンによっては、BIOSでCOMポートが使用不可になっている場合があります。使用可能になるようにに設定してください。設定方法についてはご使用のパソコンメーカーにお問い合わせください。
- (4) Windows®Me/98/95のデスクトップ画面の「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリックして、「システム」をダブルクリックしてください。「デバイスマネージャ」のタブをクリックし、表示されるアイコンの中から「ポート(COM&LPT1)」をダブルクリックしてください。

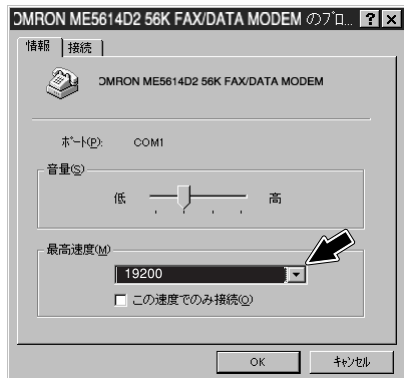
アイコンの下段に通信ポートが表示されます。

接続されている通信ポートに、(?)、(!)、(X)の印がついている場合は通信ポートが使用できません。

「プロパティ」画面で、使用可能状態にしてください。詳細につきましては、ご使用のパソコンメーカーへ、お問い合わせください。



- (5) 「ドライバ(INFファイル)」を削除し、再インストールします。  
ドライバの削除方法、124ページ参照
  - (6) パソコンによってサポートされていない端末速度になっていることがあります。Windows®Me/98/95のデスクトップ画面の「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリックして、「モデム」をダブルクリックしてください。
- モデムの機種を選択して「プロパティ」をクリックします。最高速度を下げ確認してください。(19200か9600にしてみてください。)



- (7) 正しく設定ファイルがインストール出来ない場合がありますので、ファイルを削除してからパソコンを再起動してください。  
ドライバの削除方法、下記Q4参照

## Q4. 「ドライバ(INFファイル)」の削除方法

### 《Windows®Me/98/95の場合》

- (1) 「コントロールパネル」の「モデム」をダブルクリックし「モデム」のプロパティ画面の中に「OMRON ME5614D2 56K FAX DATA MODEM」が表示されている場合は削除してください。(ME5614E2をお使いのお客様はOMRON ME5614E2 56K FAX DATA MODEMが表示されます。)
- (2) デスクトップ画面の「スタート」→「検索」「ファイルやフォルダ」をクリックしてください。「検索」画面の「名前」にファイル名を入力してください(WindowsMeの場合「omronscdsvsme.\*」、Windows 98/95の場合「omronscdsvs9x.\*」)。「探す場所」の▼をクリックし、OSが入っているドライブ(例えばWindowsMe(C:))を選択してください。次に「サブフォルダも探す」にチェックマークを付けて、「検索開始」をクリックしてください。
- (3) 検索されたファイル「omronscdsvs9x.inf」または「omronscdsvsme.inf」を右クリックし、「削除」をクリックしてください。

### <Windows®Server™2003/XPの場合>

- (1) 「コントロールパネル」の「電話とモデムのオプション」アイコンを選択し、「モデム」タブをダブルクリックしてください。
- (2) 「モデム」画面に「OMRON ME5614D2…」が表示されている場合は削除してください。(ME5614E2をお使いのお客様は「ME5614E2」が表示されます。)

## Q5. エラーメッセージが表示されて接続できない

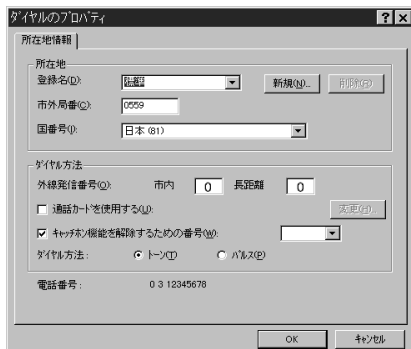
### 5-1

内線発信している場合に、「発信音が聞こえません。モデムが電話回線に正常に装着されているか、確認してください。」とメッセージがでる。

- (1) 「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」→「接続先アイコン」右クリック→「プロパティ」→「設定」→「接続」接続オプションの「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずします。



- (2) 「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」→「接続先アイコン」をダブルクリック→「ダイヤルのプロパティ」→「外線発信番号」「市内」「長距離」の欄に「0」を入力します。



- (3) 以上の設定をしても接続できない場合は、ハイパーターミナルで回線とモデム本体に、異常がないか確認してください。ハイパーターミナル使用方法  
134 ページ参照

## 5-2

「ダイヤル先のコンピュータが応答しません。しばらくしてからやり直してみてください」

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続のアイコンをダブルクリックして、やり直してみてください」

「回線が使用中です。しばらくしてからやり直してみてください」

- (1) お使いの電話回線の種類(プッシュボタン、ダイヤルパルス)が違う場合があります。  
「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」→「接続先アイコン」をダブルクリック→「ダイヤルのプロパティ」→「ダイヤル方法」を確認してください。
- (2) モジュラーケーブルがモデムの背面のLINE端子に接続されているか確認してください。
- (3) ダイヤル音がして、ピーガーで止まる場合には、電話回線状態が悪い為うまく接続できない場合があります。何回か行っても接続できない場合は、巻末のカスタマサポートセンタまでご連絡ください。

## 5-3

「サーバーの種類で指定された互換性のあるネットワークプロトコルを処理できませんでした。コントロールパネルでネットワーク設定を調べてから、接続しなおしてみてください」

- (1) PC98 シリーズのCOM1 をご使用の場合、一部の機種では最高速度の設定を19200bpsに落として確認してください。  
「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」→「接続先アイコン」右クリック→「プロパティ」→「設定」→最高速度を19200に変更します。
- (2) 設定が正しいにもかかわらず接続できない場合は、ダイヤルアップネットワークの中の接続先アイコンを削除し、新しい接続先アイコンで設定し直してください。

## 5-4

「コンピュータはモデムからの応答を受信しません。モデムが正しく装着されているか確認されているか確認し、必要であればモデムの電源を一度切って、入れ直してください」

「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」→「接続先アイコン」を右クリック→「プロパティ」→「接続の方法」でお使いのモデムの機種 OMRON ME5614D2 56K FAX DATA MODEM(もしくはOMRON ME5614E2 56K FAX DATA MODEM) になっているか確認してください。

## Q6. 接続スピードが遅い、ホームページの表示が遅い

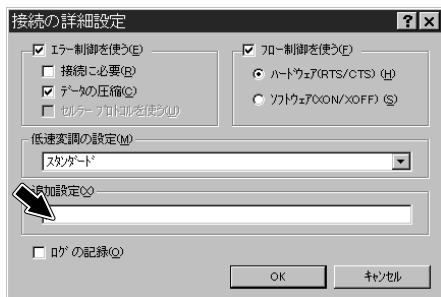
最大56Kbpの高速通信を実現させるV.90方式では、回線側の影響を受けやすくなっています。回線の品質以上の速度で接続した際に、頻繁にリトレインやフォールバック／フォールフォワードを起こしているのかもしれません。またその際にエラー訂正も実施されるために、非常にデータの転送速度が遅くなっている可能性があります。

### (1) ノイズ対策

- モジュラーケーブルをできるだけ短いものにしてください。
- テレビ、ラジオ、電化製品、電源コンセントからできるだけ離してみてください。ノイズを発生しやすいものを近づけないでください。

### < Windows®Me/98/95の場合 >

[マイコンピュータ]→[ダイヤルアップネットワーク]→[接続先アイコン]右クリック→[プロパティ]→[設定]タグ→[詳細]→[追加設定]に下記をいれます。



### (2) 接続速度を下げます。

AT コマンド、"+MS=V90,1,300,33600,\*\*\*\*\*"を追加してみてください。  
\*\*\*\*\*は48000,46667,45333,42667を入れ替えてみます。

- V.90ではなくV.34で接続します。  
ATコマンド、"+MS=V34"
- リトレイン、フォールバック／フォワードの設定をします。  
ATコマンド、"%E2"を追加します。  
変わらなければ"%E1"を入れてみてください。
- MNP接続の設定をします。  
ATコマンド"%N5%C1"を追加してみてください。
- 最高速度を下げます。  
[マイコンピュータ]→[ダイヤルアップネットワーク]→[接続先アイコン]右クリック→[プロパティ]→[設定]→[最高速度]を57600にします。





## &lt;MacOS 7.6.~9.2.2 の場合&gt;

- (1) ①~④までの手順で、ターミナルモードを起動し、以下のコマンドを入力します。
- ①「アップルメニュー」→「コントロールパネル」→「PPP」(もしくは「リモートアクセス」)→「オプション」→「プロトコル」を選択し、「コマンド入力が必要なホストに接続する」、「ターミナルウインドウを使う」にチェックを入れます。
- ②接続し、ウインドウが起動してから、「login:」という文字が表示されます。
- ③「+++」(+マーク3つ)をキーボードから打ち、「OK」と表示されます。
- ④「ATH」リターンの後に、回線が切れ「OK」と表示されます。そこから、ATコマンドの入力が可能となります。
- (2) 接続速度を下げます。  
ATコマンド、「AT+MS=V 90,1,300,33600,300,\*\*\*\*\*&W」リターンを入力します。\*\*\*\*\*は48000、46667、45333、42667を入れ替えます。
- (3) V.90ではなく、V.34で接続します  
ATコマンド、「AT+MS=V 34&W」リターンを入力します。
- (4) リトレイン. フォールバック/フォワードの設定をします。  
ATコマンド、「AT%E2&W」リターンを入力します。  
変わらなければ、「AT%E1&W」リターンを入力してください。
- (5) MNPの接続の設定をします。  
ATコマンド「AT¥N5%C1&W」リターンを入力してください。

## Q7 エラーメッセージが表示され、ホームページが開けない

- (1) アドレスの指定に間違いがないか確認してください。  
他のアドレスを入れてみてください。
- (2) DNSの設定を確認してください。  
「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」→「接続先アイコン」右クリック→「プロパティ」→「サーバの種類」→「TCP/IPの設定」でネームサーバアドレスがプロバイダの情報と同じか確認してください。

## Q8 エラーメッセージが表示され、接続できない。(Macintosh)

## 8-1 モデムが適切に応答しない(モデムが認識しない)

- (1) モデムの電源が入っているか確認してください。
- (2) DTE 接続ケーブルが正しく接続できているか確認してください。
- (3) アップルメニューから「セレクト」を選択し、「Apple Talk」が不使用になっている事を確認してください。
- (4) 内蔵モデムがある場合は、通常プリンタポートに接続します。その場合、内蔵モデム用ソフトは「機能拡張マネージャ」で使用不可にします。  
詳細については、パソコンメーカーにお問い合わせください。



## 8-2

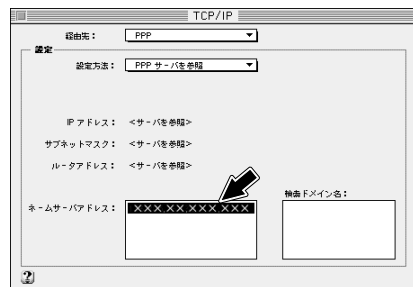
キャリアが検出できない(ダイヤルしない、もしくはダイヤルでとまる)

- (1) お使いの電話回線の設定(プッシュトーン、ダイヤルパルス)がまっているか確認してください。「コンフィギュレーション」ウィンドウの項目の中で、ダイヤル接頭文字が、ご使用の電話回線がプッシュトーンの方はATDT、ダイヤルパルスの方は、ATDPに設定してください。
- (2) モジュラーケーブルがモデムの背面のLINE端子に接続されているか確認してください。
- (3) 内線発信(0発信や9発信で一般公衆回線と同じ仕様)の場合は電話番号の先頭に「0,」、「9,」をつけてください。
- (4) 電話回線状態が悪い為、うまく接続できない場合があります。何回か行っても接続できない場合は、巻末のカスタマサポートセンタまでご連絡ください。

## Q9. エラーメッセージが表示され、ホームページが開けない。

- (1) ID、パスワードが間違っていないか、特に大文字小文字に注意してください。
- (2) 「TCP/IP」画面の「ネームサーバアドレス」がプロバイダから与えられた情報と同じか確認してください。

## Macintosh の場合



## Q10. 機種名が表示されない。

「システムフォルダ」→「機能拡張」→「Modem Scripts」フォルダに、CCLファイルがコピーされているか確認してください。

## Q11. エラーメッセージが表示され、接続できない。

### 11-1

「接続できません。モデムが適切に応答しません。」

- (1) モデムの電源が入っているか、確認してください。
- (2) DTE接続ケーブルが正しく接続されているか、確認してください。
- (3) アップルメニューから「セレクト」を選択し、「Apple Talk」が不使用になっている事を確認してください。
- (4) 「コントロールパネル」→「モデム」→「経由先」は、実際に接続されているポートと同じになっていますか。
- (5) 内蔵モデムがある場合は、通常プリンタポートに接続します。その場合、内蔵モデム用のソフトは「機能拡張マネージャ」で使用不可にします。詳細については、パソコンメーカーにお問い合わせください。

### 11-2 「搬送波が検出できません。」

- (1) 「コントロールパネル」→「モデム」→「ダイヤル」の設定が、お使いの電話回線の種類(プッシュトーン、ダイヤルパルス)とあっているか、確認してください。
- (2) モジュラーケーブルが、モデムの背面のLINE端子に接続されているか確認してください。
- (3) 内線発信(0発信や9発信で一般公衆回線と同じ仕様)の場合は、電話番号の先頭に「0,」「9,」をつけてください。
- (4) 電話回線状態が悪いため、うまく接続できない場合があります。接続先プロバイダのアクセスポイントが、他にある場合は、他のアクセスポイントに接続して確認してください。



## ◇チェック表による確認

## Windows®Server™2003/XP/2000の場合

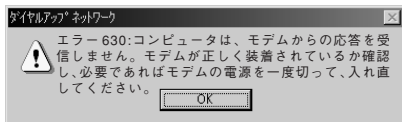
インターネットへ接続できない、または接続後のトラブルが発生したときは、このチェック表を利用して、設定を確認してください。

以下はWindows®2000の画面を参照して説明します。画面の表示が異なることがあります、その場合は画面の表示に従ってください。

チェック 1  **アクセスポイントの電話番号を誤って入力していませんか？**

接続先の電話番号に間違いがないかご確認ください。また、アクセスポイントの電話番号をかえてみてください。

チェック 2



### ●「モデムの照会」が開けますか？

設定したモデム設定ファイル(INFファイル)とパソコンに接続したME5614D2/E2が正常に動作するかどうかを確認します。

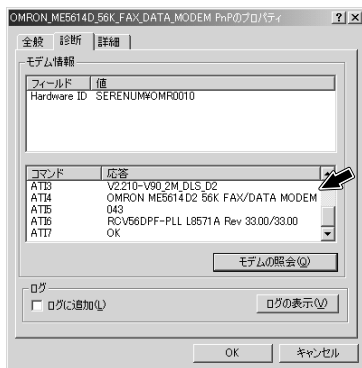
① 「スタート」メニューの中の「設定」から「コントロールパネル」をクリックしてください。

② 「電話とモデムのオプション」をダブルクリックし「モデム」タブをクリックしてください。

「OMRON ME5614D2\_56K\_FAX\_DATA\_MODEM」が表示されているポートのアイコンをクリックし、「プロパティ」をクリックしてください。



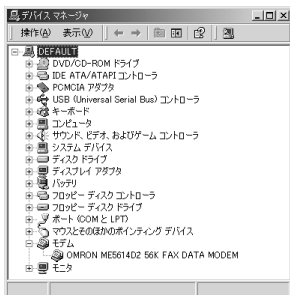
- ③ 「診断」タブをクリックし「モデムの照会」をクリックしてください。「ATI4」に「OMRON ME5614D2\_56K\_FAX\_DATA\_MODEM」を確認できたら接続は完了です。「OK」をクリックし、デスクトップ画面に戻ってください。(ERRORが返るコマンドがありますが、異常ではありません。)



「モデムの照会」が開けない場合は下記の内容を確認してください。

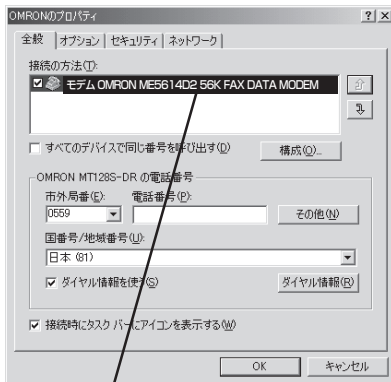
●モデムが正常にインストールされていますか？

- ① 「スタート」メニューの中の「設定」から「コントロールパネル」をクリックしてください。
- ② 「システム」をダブルクリックして、「ハードウェア」、「デバイスマネージャ」タブをクリックして開いてください。  
次のような画面が表示されていますか？



●他のモデムを選択していませんか？

「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」→「接続するプロバイダのアイコン」を右クリックして「プロパティ」をクリックしてください。



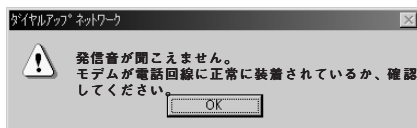
新しく機種名が選択(チェック)されているか、ご確認ください。

## 上図のように正しく表示されない場合

「❗ OMRON...」または「? その他のデバイス」、❖ 不明なデバイス」と表示された場合は、選択して削除してください。

その後、Windows®XP の場合 P124、Windows®2000の場合 P137を参照し、ドライバをアンインストールしてください。その後再インストールします。

チェック



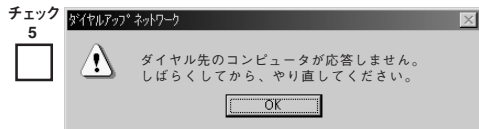
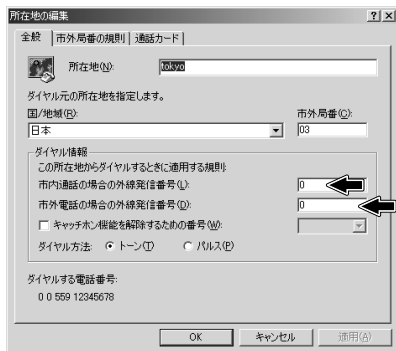
●回線は正しく接続されていますか？

モジュラーケーブルがME5614D2の背面のLINE端子に接続されているか確認してください。

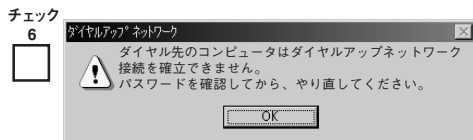
●内線発信の回線ではありませんか？

① 「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「電話とモデムのオプション」→「モデム」→「プロパティ」→「ダイヤル情報の管理」→「☐発信音を待ってからダイヤルする」のチェックをはずしてください。

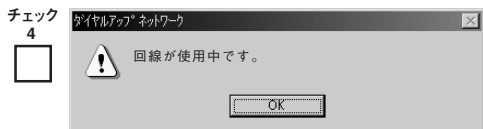
- ② 「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」→「接続するプロバイダのアイコン」をダブルクリック→「プロパティ」→「全般」タブ→「ダイヤル情報」→「編集」→「全般」の「市内通話の場合の外線発信番号」「市外通話の場合の外線発信番号」の欄に「0」を入力します。



- **回線が混んでいませんか？**  
回線が混雑してつながらない可能性があります。しばらくしてから、もう一度接続してみるか、他のアクセスポイントに接続して接続できるかどうかをご確認ください。
- **アクセスポイントに間違いがありませんか？**  
接続先の電話番号に間違いはないかご確認ください。



- **パスワードが間違っていないですか？**  
ID、パスワードが間違っている可能性があります。もう一度正しく入力されているかご確認ください。また入力方法は半角入力で大文字、小文字などを間違えないようご注意ください。なお、パスワードは、画面上入力していただいたものより文字数が多く表示されます。



- **回線が混んでいませんか？**  
アクセスポイントの回線が混んでいることが考えられます。アクセスポイント先の電話番号を変更してみてください。
- **お使いの電話回線の種類**  
(トーン/パルス) は間違っていますか？  
「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」→「接続するプロバイダのアイコン」を右クリックし「全般」→「ダイヤル情報」→「編集」→「ダイヤル方法」を確認してください。
- **自動発信規制がかかっていませんか？**  
本製品では、話中の場合の同じ電話番号への発信は3分間で2回以内に制限されます。最初の発信から3分待つか、別の電話番号へ発信してください。

- チェック 7
- 「サーバーの種類で指定された互換性のあるネットワークプロトコルを処理できませんでした。コントロールパネルでネットワーク設定を調べてから接続直してみてください。」というメッセージが出て接続できない。
- 「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」→「接続するプロバイダのアイコン」を右クリックし、「プロパティ」をクリックしてください。
- 「ネットワーク」タブをクリックし、「チェックボックスがオンになっているコンポーネントはこの接続で使われます」で、「インターネットプロトコル(TCP/IP)」にチェックがはいっていますか。

チェック  
8



ブラウザを開いたときに「~が見つかりません」「http://~/が見つかりません」などのメッセージが表示される。

- ドメインネームサーバー(DNS)のIPアドレスやドメイン名の設定が間違っていないか確認してください。
- ダイヤルアップネットワークで作成したアイコンを削除し、「新しい接続」アイコンから作り直してください。

チェック  
9



モデムを初期化してください。  
P134モデムの動作を確認するを参照ください

チェック  
10



ターミナルモードでプロバイダへ接続ができませんか？(通信テスト)  
CONNECTまたはLOG INの表示がでますか？  
P134 モデムの動作を確認するを参照ください

# ◇モデムの動作を確認する... Windows®Server™2003/XP/2000/Me/98/95の場合

本モデムとパソコンとの接続を、時報(117)に接続して確認します。確認には、Windows®Server™2003/XP/2000/Me/98/95/NT4.0に標準で装備されている「ハイパーターミナル」を使用します。長時間使用しなかった場合は、モデムを初期化してください。

**1** Windows®Server™2003/XP/2000/Me/98/95の「スタート」→「プログラム」(すべてのプログラム)→「アクセサリ」→(「通信」)→「ハイパーターミナル」をクリックしてください。「HyperTerminal」画面が表示されます。

WindowsNT®4.0の方は「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「ハイパーターミナル」→「ハイパーターミナル」をクリックしてください。



**2** 「Hypertrm」アイコンをダブルクリックしてください。(この画面は出ない場合があります)



**3** 「名前(N)」欄に適当な名前(この例では「ABC」と入力し、「OK」をクリックしてください。



4 「電話番号(P)」欄に適当な数字(この例では「111」と入力し、「接続方法(N)」欄はプルダウンメニューから「ME5614D2」をクリックしてください。入力後、「OK」をクリックしてください。




5 「キャンセル」をクリックしてください。これでATコマンドの入力可能なターミナルモードに入ります。



6 ターミナルモードで、次のようにATコマンドを入力して時報に接続します。

- ① **AT**   
**OK** が表示されます。  
**AT** が表示されない場合でも、**AT**  と入力し、**OK** が表示されるか確認してください。  
**AT** もしくは **OK** が表示されない場合は **AT&F**  を入力してください。  
**AT** および **OK** が表示されます。
- ② **ATDT117**   
(**ATDT117** は電話回線がトーンの場合です。パルスのときは **ATDP117** と入力します。)  
接続が完了すると時報が聞こえてきます。



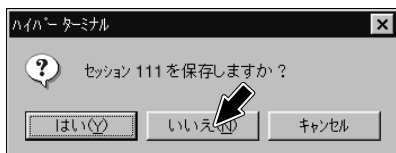
7 メイン画面のツールバーの  ボタンをクリックしてください。時報への接続が終了します。





**8** メニューバーの「ファイル」メニューをクリックして、「ハイパーターミナルの終了」をクリックしてください。

**9** 「セッションABCを保存しますか?」と聞いてきますので「いいえ」をクリックしてください。  
「ハイパーターミナル」が終了します。  
これで、モデムの初期化と動作テストが完了しました。



### 留意事項

- 「NO CARRIER」が表示されたら、通信速度を確認してください。
- 「BUSY」が表示されたら、別の電話番号にかけてみてください。

## ◇ドライバの削除方法

インターネットにつながらない、詳細情報が開けない場合は、「ドライバ」を削除し、再度インストールを行ってください。

Windows® Server™2003/XP/Me/98/95をお使いの場合は、P124「お困りのときには◇Q&A Windows®Me/98/95の場合」のQ4.「ドライバ（INFファイル）」の削除方法をご参照ください。

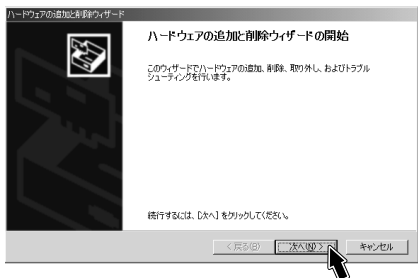
Windows® 2000をお使いの場合は、以下に削除方法を説明します。

### ■「ドライバ」の削除

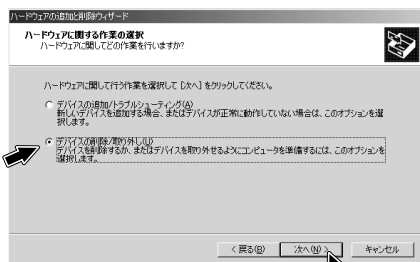
- ① 「スタート」メニューの中の「設定」から「コントロールパネル」をクリックしてください。
- ② 「ハードウェアの追加と削除」をダブルクリックしてください。



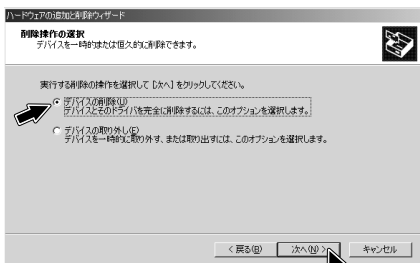
- ③ ハードウェアの追加と削除ウィザードが開始されます。「次へ」をクリックしてください。



- ④ 「デバイスの削除／取り外し」を選択して「次へ」をクリックしてください。



- ⑥ 「デバイスの削除」を選択して「次へ」をクリックしてください。



- ⑥ 削除するデバイスで「OMRON ME5614 D2 (または ME5614E2) 56K FAX DATA MODEM」を選んで「次へ」をクリックしてください。



- ⑦ 「はい、このデバイスを削除します」を選んで「次へ」をクリックしてください。



- ⑧ 「選択されたデバイスは正常に削除されました。」と表示されます。「完了」をクリックし、ハードウェアの追加と削除ウィザードを終了してください。

- ⑨ デスクトップ画面の「スタート」→「検索」→「ファイルやフォルダ」をクリックしてください。

「ファイルまたはフォルダの名前」欄に「oem」、「含まれる文字列」欄に「omron」と入力してください。

「探す場所」の▼をクリックし、OSが入っているドライブ（例：ローカルハードドライブ (C:)）を選択し、「検索開始」をクリックしてください。

- ⑩ 検索されたファイル「oem \*.inf」（\*には数字が入ります）を右クリックし、「削除」をクリックしてください。

以上でドライバの削除は終了です。

## ●用語の解説

パソコン通信の規格、基準、手順が多数存在するのは、パソコン通信の利便性を向上する要望が強く、送信速度、送受信の信頼性向上を追求し、いろいろと工夫をしてきたためです。そのために用途は飛躍的に拡大しましたが、通信手順の種類も増大しました。原理的な区分としては、通信方式として全2重、半2重、同期方式として調歩同期式、非同期式、通信規格としてBELL規格、ITU-T規格、エラー訂正機能としてマイクロコム社開発のMNP規格、ITU-T規格、データ圧縮機能としてマイクロコム社開発のMNP規格、ITU-T規格等があります。この他に通信速度や、電話回線の規格(NTTの仕様)、ヘイズ社開発の制御(AT)コマンド規格等の各種規格、基準があります。これらのことはどんなことなのか説明します。

### ■通信ソフトマニュアル、パソコン通信局(BBS)の用語説明

- |            |  |
|------------|--|
| 全二重通信方式    | 電話と同じように送信側がデータを送っているときに、受信側からもデータを送信できる双方向通信方式です。パソコン通信はほとんどこの方式です。   |
| 半二重通信方式    | 送信側がデータを送信しているときには、受信側は受信するだけの交互通信方式。データの送信速度は遅いのですが信頼性は高いので、重要なシステムでは今でも半2重方式が使われています。  |
| 有手順通信方式    | HDLC、BSC等の通信方式。MNPやV.42も有手順の通信方式です。(ただし端末—モデム間は無手順)  |
| 無手順通信方式    | データの変換や加工、エラーの訂正を一切しない方式。  |
| 通信速度 ………   | 1秒間に送信するデータのビット数。  |
| データ長 ………   | 半角1文字を表すビット数、海外のネットにアクセスするときは7ビット、漢字を扱うときには8ビットとなります。  |
| パリティ ………   | データの送受信が正しく行われているか、1ビット付加してデータ数の合計が必ず奇数(または偶数)になるようにしてチェックします。   |
| ストップビット …… | 文字の区切りを表すビット数のことです。1文字の伝送データの区切りは必ずストップビットとストップビットには含まれています、従って1ビット以上で設定する必要があります。   |
| 伝送コード ………  | ホストコンピューターが使用している文字コード。  |
| エコーバック ……… | 送られてきたデータを、送信先にそのまま送り返すことをエコーバックといいます。端末自身、モデム、ホストコンピュータ等がエコーバック有無の設定を持ち、入力した文字を、入力した側が確認するために使用されます。一般的には、入力した文字を確認する必要がある時には(ID番号等)ホストコンピュータがエコーバックを行うため、端末、モデムのエコーバック(一般的にはローカルエコーバックと言われる)は不要です。 |

## 用語の解説

- 改行制御 …………… パソコンやワープロで改行キーまたはキャリッジリターンキーを押したとき、ホストコンピューター側にどのようなコードを送信するかを設定します。また、ホスト側で改行コードを送信したときに通信ソフト側でどのような処理を行うかを設定します。
- 送信区切りコード … パソコン通信のメニュー選択やコマンド入力するときに、入力の確定時入力するコードのことで、一般的にはキャリッジリターンコードになります。
- 入力訂正コード … 間違ったコマンドや番号を入力したとき、訂正するために送るコードのことで、バックスペースコード等が使用されます。
- 漢字コード …………… 文字を送受信するために全ての文字はコード化されています。この種類にもいくつかありますが、ふつうはシフトJISを利用します。
- ファイル転送方法 … データの送受信に用いる転送方式(プロトコル)のことです。
- 処理の中断コード … 通信中に処理を中断するときに用いるコードのことです。

## ■仕様書、カタログの用語の説明

- モデム …………… Modulator DE Modulatorの頭文字を取ったもので変復調器。
- ホストコンピューター … ネットワークの中心にあって、多数のパソコン(またはワープロ)を管理したり、データの演算やデータのメモリーをする大型の高速コンピューター。
- ネットワーク …… ホストコンピューターを中心にして複数のパソコン(またはワープロ)と接続された通信回線網。
- RS232C …………… EIA(アメリカ電子工業会)が定めたインタフェース規格。パソコンと周辺機器をつなぐインタフェースとして、信号の送受信方法について、コネクタ形状と信号の送受信時の基本的な方法について、規定したものです。
- シリアル(パラレル)転送 … 信号の送受信は1本の線で直列に1010と信号を送る方法と4本(または8本、16本、32本)の線で並列に1010……と信号を送る方法があります。直列に信号を送る方法をシリアル転送といいます。直列に送る方が転送時間が長くなりますが、伝送路が低価格で作れます。
- ハンドシェイク …… 信号の送受信をするときに信号のレベル、幅、スタート、ストップ、自分に送られたものなのかの認識、どんな言語かの認識等が一致したとき始めて通信できます。モデムが通信を開始する直前にモデム同士でお互いに通信条件の情報交換を行い条件を合わせることをいいます。
- 同期方式 …………… 送受信間のデータの始まり、終わりのときのタイミングの取り方。
- 調歩同期 …………… 一定の長さのデータの前後にスタートビットとストップビットと呼ばれる同期のためのビットを付けて伝送する方式。
- 同期式 …………… データ信号線の他に同期信号専用の信号線を使い通信する方式。
- NCU …………… Network Control Unit(網制御装置)の略。電話機と同じような機能を持ったもので、パソコンからの指示によって、電話回線にダイヤル信号を送ったり、ダイヤル信号を受けて呼び出し音を鳴らしたりします。

# 用語の解説

- AA(自動発着信) パソコンからのコマンドにより、自動ダイヤルを行なう方式です。
- MA(手動発信、自動着信) パソコンからのコマンドは受け付けません。電話機で電話をかけて、電話がつながったらスイッチを切替えてデータを送る方式です。
- 通信規格 …………… モデム同士が通信するための変復調方式の規格です。
- BELL規格 ……… ベル社が提唱した通信規格でアメリカ国内で低速の通信に使われています。
- ORGモード ……… ORIGINATEの略で一般的にモデム間の通信は発信側をORGモードとし受信側をANSモードにして行います。送信データの電圧レベル、周波数をORG, ANSに割当し送受信が一本の電話線でできるようにするための方法で、必ず相対していないと通信できません。
- ANSモード ……… ANSWERの略で、前記。
- MNP …………… Microcom Networking Protocolの頭文字を取ったもので米国のモデムメーカーのMicrocom社が提唱した、通信回線上のさまざまな原因により発生する通信エラー(文字化け等)をモデム同士で自動的に検出し、訂正するエラーフリー通信とデータ圧縮を実現するプロトコルです
- ATコマンド ……… 米国のヘイズ社が提唱したモデムの発信、着信を全てパソコンからのコマンド指示によってできるようにしたもので現在、世界で最も普及しているモデムのコマンド体系です、全てのコマンドがATで始まっているのでATコマンドと言われています。パソコンがモデムに送る命令をコマンド、命令に対してモデムからパソコンに返される文字列をリザルトコードと呼びます。
- ITU-T …………… 旧称はCCITTのことです。国際電気通信連合電気通信標準科部門のこと。国連の専門機関の1つであり、電気通信サービスの技術、運用等に関する勧告(規格)の作成を行っている。ファクシミリ、ISDN等通信全般について扱っているが、V.○○というのはモデムに関する勧告になっている。
- V.FC …………… ロックウェル社が独自に開発した最高速度28800bpsまで対応した通信規格です。
- LAP-M …………… Link Access Procedure for Modemの略。MNPと同様、エラーフリーを実現するプロトコル。V.42で使用されます。
- BBS …………… Bulletin Board Systemの略で電子掲示板システムと訳され会員がお知らせの掲示を出したり、何かの質問を寄せたり仲間を募集するメッセージを掲載したりします。
- GIII …………… 電話回線(アナログ式)用のFAX通信手順。国際標準となっており、A4原稿が1分程度で送られます。他にGMというデジタル式の規格もあり、A4原稿を4秒程度で送ることができます。
- V.42bis …………… CCITTで規定されているデータ圧縮の手順です。V.42bisはLAP-Mとの併用を前提に規定されています。最大300%程度の圧縮を行うことができます。

## 用語の解説

---

- K56flex …………… K56flexとは送信が最大33.6Kbps、受信が最大56Kbpsでのデータ転送が可能なロックウェル社が開発した独自の通信規格です。他の56Kbpsの規格であるx2、V.90とは互換性がありません。
- V.90 …………… 送信が最大33.6Kbps、受信が最大56Kbpsでのデータ転送が可能な通信規格です。V.90の技術仕様は、1998年2月にITU-T(国際通信規格)によって採択されました。

## ■ データ通信、FAXモデムの基礎知識

### ● データ通信の基礎知識

#### ターミナルモードとは？

ターミナルモードとは、ソフトを使う人とモデムの間で直接会話をする機能です。

モデムはATコマンドという言葉でソフトから命令を受けます。通常は目には見えないところで通信ソフトがダイヤリングや設定を変更するコマンドを発行しています。例えば、通信ソフト上では発信という項目を選択するだけでモデムはダイヤリングをし、相手と接続します。でも実際は通信ソフトがダイヤルコマンドをモデムに送っているのです。

つまり、ATコマンド(ダイヤルコマンドなど)を直接キー入力し、モデムへ与えることのできるモードがターミナルモードです。

ターミナルモードにするには、通信ソフトを起動すると自動的にターミナルモードになるものやメニューから機能を選択するものなど通信ソフトによって様々です。

#### エラー訂正、データ圧縮とは？

エラー訂正とは、電話回線上の雑音などでデータが壊れてしまうと文字化けがするため、壊れたデータをもう一度送り直して正しい文字を送信する機能です。

データ圧縮とは、送信側モデムで送信データを圧縮し、受信側モデムでデータを復元することにより送信効率をあげることができます。

エラー訂正、データ圧縮の方式には、大きく分けてMNP系とV.42系があります。MNP系は圧縮率最高200%、V.42系は圧縮率最高400%といわれています。データの内容によっては得意不得意があるため、必ずしもV.42系が効率が良いというものではありません。

#### 通信速度と端末速度の関係は？

データ圧縮は本モデムの内部で行われています。データの内容にもよりますが、実際のモデム-モデム間は2~3倍の速度で通信されます。そこで端末-モデム間をモデム-モデム間の2~3倍の通信速度を設定しておく必要があるのです。このことによりデータの圧縮効果があらわれます。端末-モデム間の通信速度を高速に設定しても、ある設定をしていないとデータ通信に入ったときに端末-モデム間の速度が通信速度と同じ速度まで下がってしまいます。ある設定とは、端末速度固定モード。データ圧縮と端末速度固定は常に組み合わせて使います。





## フロー制御とは？

データ圧縮を使っているときのように、モデム-モデム間と端末-モデム間の処理速度が異なる場合には、処理速度の速い側が遅い側に合わせる必要があります。処理速度の遅い側では、処理が間に合わなくなりそうになると、相手に対して「一時停止」を要求します。処理に余裕ができた時点で「再開」を要求します。このようにデータの流れ(フロー)を制御するので、フロー制御と呼ばれます。

モデムでは、殆どの場合RS/CSフロー制御が使用されます。

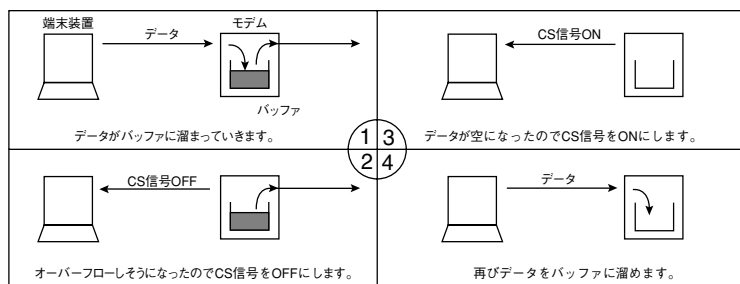
### ●XON/XOFFフロー制御

パソコン通信ソフトでおなじみのフロー制御方式です。XON/XOFFフロー制御方式に設定されたモデムはバッファがオーバーフローしそうになったらXOFFコードを送出しバッファが空になったらXONを送出します。

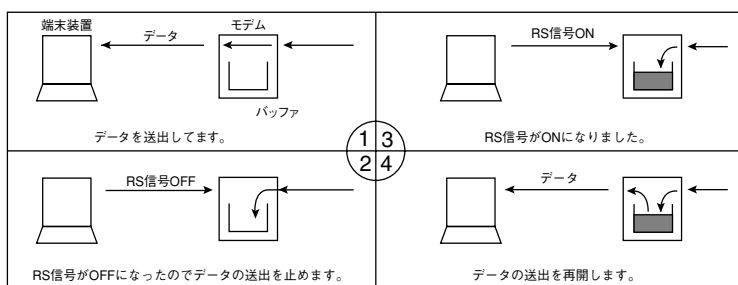
### ●RS/CSフロー制御

XON/XOFFフロー制御方式ではバイナリーデータや漢字テキストデータを送出すると誤動作や、データ抜けが occurs します。

これらの問題を解決したフロー方式がRS/CSフロー制御方式です。RS-232Cインターフェイスの信号のRS信号とCS信号を使ってフロー制御を行う方式です。RS/CSフロー制御方式に設定したモデムはバッファがオーバーフローしそうになったらCS信号をOFFにします。そして再び、バッファが空になったらONにします。次の図を参照してください。



また、モデムはRS信号がOFFになったらデータの送出手を止め、RS信号がONになったらデータの送出手を再開します。次の図を参照してください。



## ● FAX モデムの基礎知識

### クラス1、クラス2とは？

クラス1とクラス2とは、FAXモデム通信の規格であり、FAXコマンドです。データ通信では、ATコマンドを使ってモデムを操作するように、FAXモデムはFAXコマンドを使って操作します。FAXソフトウェアが私たちの目に見えないところでFAXコマンドを使ってFAXモデムを操作しているのです。実際の操作は、FAXコマンド上の「送信」とか「受信」というような項目選択するだけです。

この二つのコマンドは互換性はありません。そのためFAXソフトを購入するときはクラス1かクラス2かご確認ください。

### クラス1とクラス2の性能の違いは？

通信速度や画質の選択(ファイン/ノーマル)などのやりとりをFAXソフト(ソフトウェア)で行うものがクラス1、FAXモデム(ハードウェア)で行うものがクラス2です。

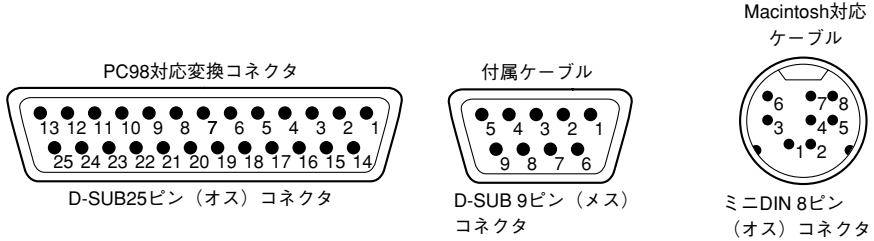
クラス2の方がパソコンのCPUの負荷が軽くなりますが、どちらも通信時間や画質の鮮明さなどに違いはありません。

もっとくわしく理解したいという方は、市販の雑誌等をご覧ください。

## 付 録

### ■ 端末 (DTE) 接続ケーブルインタフェース

端末 (DTE) 接続ケーブルインタフェース (RS-232C インタフェース) の接続端子と機能の概要を示します。



項目	略号	端子番号			信号方向	機能概要
		D-SUB 25ピン	D-SUB 9ピン	ミニDIN 8ピン		
保安用アース	FG	1	F	F	—	フレームグラウンド
送信データ	SD	2	3	3	端末→モデム (DTE)	端末からモデムに送られるデータ
受信データ	RD	3	2	5	端末←モデム	モデムから端末に送られるデータ
送信要求	RS	4	7	1	端末→モデム	送信要求のための信号、RS/CS フロー制御にも使用
送信可能	CS	5	8	2	端末←モデム	モデムから端末へのデータ送信の許可信号、RS/CS フロー制御にも使用
データセットレディ	DR	6	6	—	端末←モデム	モデムが送受信可能状態を示す信号
信号用アース	SG	7	5	4	—	信号用アース (信号の基準電圧)
キャリア検出	CD	8	1	7	端末←モデム	キャリア受信中通知信号
端末装置レディ	ER	20	4	1	端末→モデム	端末通信可能信号
呼出し表示	CI	22	9	—	端末←モデム	着信検出信号

端子番号 F は、コネクタの外周の金属部分となります。

略号は、JIS 規格に準拠しています。

端末(DTE)とは、データ端末装置 (パソコンなど) を意味します。

## ■仕様

## ●NCU仕様

項 目	機 器 仕 様
通信回線数	1回線
適用回線	電話回線
NCU形式	AA
ダイヤル形式	ダイヤルパルス式 (10/20pps) プッシュ式 (トーン式)
NCU制御コマンド	ATコマンド準拠 (データ通信用) FAXクラス1コマンド (EIA-578)
回線モニタ	本体内蔵のスピーカによる

## ●データ仕様

項 目	機 器 仕 様
通信方式	全二重
同期方式	調歩同期式 (非同期式)
通信速度	56000/53300/50667/49333/46667/45333/42667/ 41333/38667/37333/34667/33333/30667/29333/ 26400/24000/21600/19200/16800/14400/ 12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21/ BELL 212A/103
端末-モデム間速度	115200/57600/38400/19200/12000/9600/7200/4800/ 2400/1200/300bps
動作モード	ORG/ANSモード
送信レベル	- 10dBm ~ - 15dBm
受信レベル	- 10dBm ~ - 43dBm
エラー訂正機能	MNPクラス4/10準拠、ITU-T V.42準拠
データ圧縮機能	MNPクラス5準拠、ITU-T V.42bis準拠

# 付 録

## ● FAX仕様

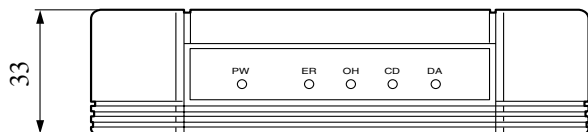
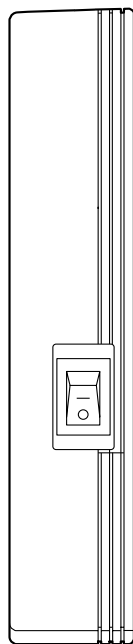
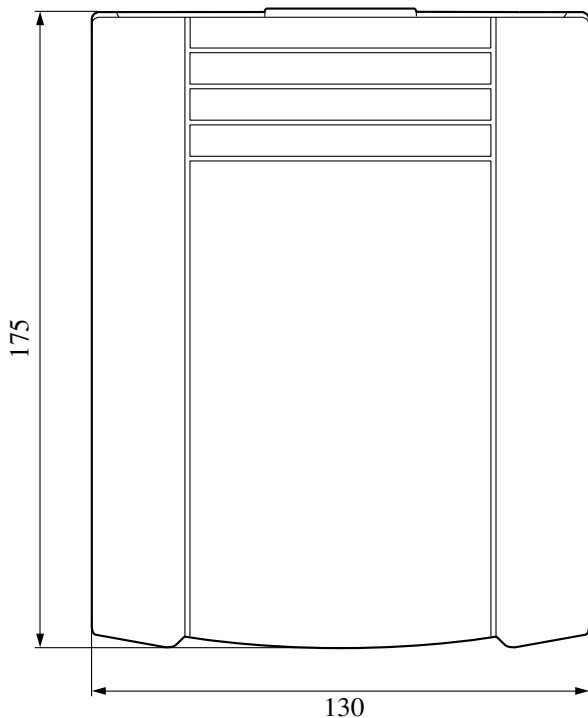
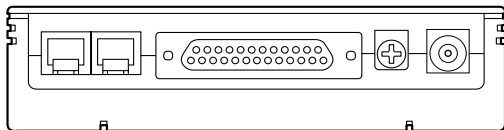
項 目	機 器 仕 様
伝送制御手順	GIII
通信方式	半二重
同期方式	調歩同期式（非同期式）
通信速度	14400/12000/ 9600/7200/4800/2400/1200/300bps
通信規格	ITU-T V.21ch2/ V.27ter/ V.29/ V.17

## ● 一般仕様

項 目	機 器 仕 様
消費電力	最大約 8VA
寸法／質量	幅：130mm、奥行：175mm、高さ：33mm、質量：500g 以下
環境条件	温度：0～40℃、湿度：25～85%（結露なきこと）

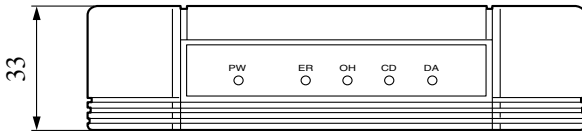
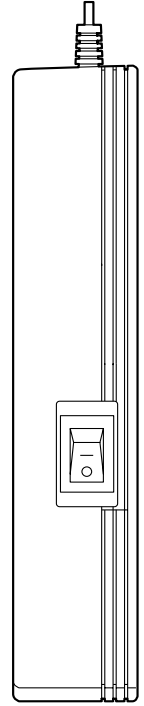
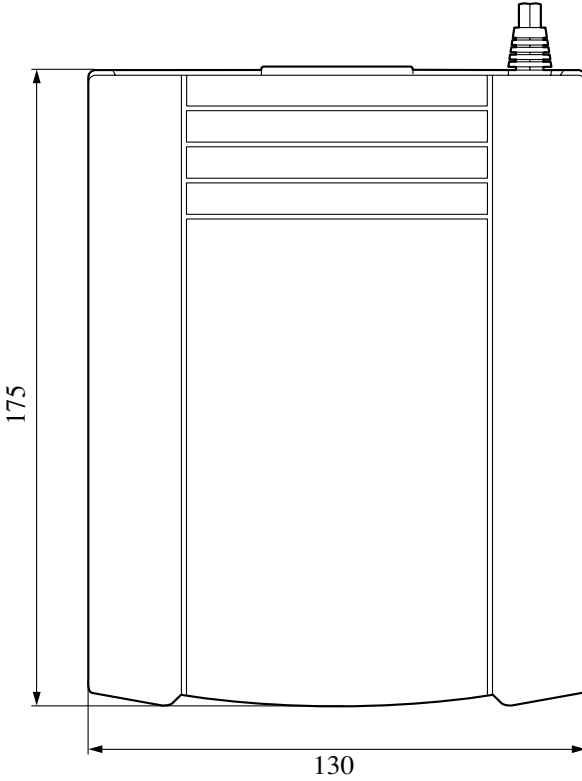
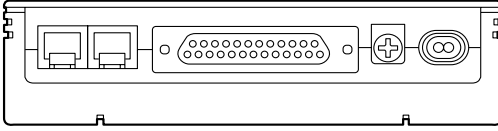
■ 外觀寸法図

● ME5614D2



# 付 録

## ● ME5614E2



## ■ モデムとパソコンを接続するケーブルについて

ご使用のモデムとパソコンによって接続するケーブルが異なります。

ご購入いただきましたモデム、ご使用のパソコンを「対応一覧」でご確認のうえ、「ケーブル／コネクタ説明」で使用ケーブル・コネクタをご参照ください。

### ● 主なパソコン機種

- A. NEC           PC-9821 Np, Ns, Ne2, Ne3, Nd, Na7, Nx, Nt, Nm, Ne, Ld, Lt  
                   PC-9821 Ts, Es  
                   PC-9801 NS/A, NL/R, NL, NS/L, NL/A  
                   PC-98 HA 他  
                   (パソコン本体側のコネクタの形状がハーフピッチ 14 ピン)
- B. NEC H98 シリーズ  
                   (パソコン本体側のコネクタの形状がハーフピッチコネクタ 26 ピン)
- C. 上記 A・B 以外の NEC PC-9800 シリーズ  
                   (パソコン本体側のコネクタの形状が D-SUB25 ピンメス)
- D. DOS/V, AX, 東芝 J3100 シリーズ等  
                   (パソコン本体側のコネクタの形状が D-SUB9 ピンオス)
- E. IBM PS/55 シリーズ等  
                   (パソコン本体側のコネクタの形状が D-SUB25 ピンオス)
- F. Apple Macintosh シリーズ  
                   (パソコン本体側のコネクタの形状がミニ DIN8 ピンメス)

### ● 対応一覧

ご購入いただいたモデム型式	パソコン機種					
	A	B	C	D	E	F
ME5614D2/E2	④	⑥	②	①	③	⑤

- ・①～⑥はケーブル／コネクタの種類です。詳しくは右側をご参照ください。
- ・上記以外のパソコンに接続するケーブルについては、各パソコンメーカー様に問い合わせください。



## 関連商品の紹介

---

### ●ケーブル・コネクタ説明

添付のケーブルは、D-SUB25ピン側、D-SUB9ピン側ともにインチネジとなります。  
市販のケーブルや変換コネクタをお買い求めの際はご注意ください。

①添付ケーブルをご利用ください。

D-SUB25ピンオス-D-SUB9ピンメスケーブル

②添付ケーブルと別途ご購入の変換コネクタをご利用ください。

D-SUB25ピンオス-D-SUB9ピンメスケーブル & D-SUB25ピンオス-9ピンオス

③市販のケーブルをお買い求め下さい。

④日本電気にお問い合わせください。

⑤市販ケーブルをお買い求めください。

ミニ DIN8ピンメス-D-SUB25ピンオスケーブル

⑥日本電気にお問い合わせください。

上記は一般市販されている、他社品または他用途のケーブルです。予告なく販売中止になる  
こともありますのでご承知ください。

■修理を希望される場合の依頼方法は2つあります。

1. お買い上げ店に持ち込んでいただく方法
2. 商品を当社周辺機器修理センタへ直送していただく方法  
(出張修理サービスは行っておりません。ご了承ください。)

＜周辺機器修理センタへ直送していただく方法＞

1. 修理依頼手順

- ① 「修理依頼票」をコピーしてください。
- ② 「修理依頼票」に必要事項をすべて記入してください。  
故障内容や発生頻度などを詳しく記入してください。
- ③ 製造番号／発送日／発送時の送り状 No. を控えとして以下に記入してください。  
修理品の問い合わせ時に必要です。

製造番号	
発送日	年 月 日
発送業者	
送り状 No.	

- ④ 「修理依頼票」を修理品に同梱し、下記宛先に発送してください。

〒491-0914  
愛知県一宮市花池 4-13-11  
株式会社 エイスタッフ内  
オムロン周辺機器修理センタ宛  
TEL: 03-3436-7213

(送料はお客様負担にてお願いします。)

2. 修理期間

おおむね 1～2 週間

\*故障状況によっては、1ヶ月以上要する場合がありますのでご了承ください。

3. 修理代金お支払い方法 (有償修理の場合)

有償での修理代金は、代金引換または銀行振込にてお支払いください。

- 代金引換 ..... ヤマト運輸株式会社のコレクトサービスを利用します。

# お問い合わせ票

## ■修理依頼票 ME5614D2/E2

● 修理依頼時、この依頼票に必要事項をすべて記入の上、製品に同梱してお送りください。

依頼日	平成 年 月 日 ( )		
フリガナ	-----		印
お名前			
ご住所	〒		
会社名 部署名			
電話番号		携帯電話番号	
FAX 番号			
E-Mail			
製造番号			
保証書	<input type="checkbox"/> 有り ..... 保証書を同梱ください。 <input type="checkbox"/> 無し ..... 保証期間内でも有償となります。		
故障状況	発生頻度	<input type="checkbox"/> 常時発生 <input type="checkbox"/> 時々発生 (具体的に ... 例：週1回) ( )	
	症状とご要望 ※故障内容を詳しく記入してください。		
お支払い方法 (有償の場合)	<input type="checkbox"/> 代金引換 <input type="checkbox"/> 銀行振込 (完了品の発送はお振込み確認後となります。)		

# お問い合わせせ票

Fax No.: 03-3436-7059

オムロンカスタマサポートセンター行

## お問い合わせせ票

\* お客様がカスタマサポートセンターにお問い合わせいただくときに本票をご利用ください。

\* ご質問の前に「お困りのときには」を一度ご参照下さい。

お名前		メールアドレス	
電話番号		ご購入日/台数	年 月 日 / 台
ご住所	〒		*本製品の底面に貼ってあるラベルの製造番号を記入下さい
型式名	ME5614D2/E2	製造番号*	
パソコン	メーカー名: 型式名:		
ご使用 OS およびバージョン <例: Windows®2000, Mac OS9 >			
プロバイダ <input type="checkbox"/> 未加入 <input type="checkbox"/> 加入済 (プロバイダ名: )			
具体的な内容<エラーメッセージなど;詳しく症状をお書きください>			



FAX/DATA モデム  
**ME5614D2/E2**  
取扱説明書

**OMRON**

\* 認証番号は本体底面ラベルを参照  
ください。

2005年11月発行

**オムロン株式会社 周辺機器事業部**

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10

TEL : 03 - 3436 - 7213

**技術的な  お問い合わせは周辺機器カスタマサポートセンタまで。**

オムロン株式会社

周辺機器カスタマサポートセンタ

TEL: ☎0120-77-4717 (携帯電話/PHSからもご利用いただけます)

FAX: 03-3436-7059

メールアドレス: omron\_support@omron.co.jp

受付時間: 月曜日～土曜日 9:00～17:30 (12:00～13:00を除く)

\* 祝祭日、当社の休日を除く

住所: 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10

**修理  お問い合わせは周辺機器修理センタまで。**

オムロン株式会社

周辺機器修理センタ

TEL: 03-3436-7213

FAX: 03-3436-7195

メールアドレス: omron\_syuri@omron.co.jp

受付時間: 月曜日～金曜日 9:30～17:00 (12:00～13:00を除く)

\* 祝祭日、当社の休日を除く

住所: 〒491-0914 愛知県一宮市花池4-13-11

株式会社エイスタッフ内 オムロン周辺機器修理センタ

**通信販売  お問い合わせはオムロンダイレクトまで。**

オムロン株式会社

周辺機器オムロンダイレクト

TEL: 03-3436-7212

FAX: 03-3436-7195


メールアドレス: omron\_direct@omron.co.jp

受付時間: 月曜日～金曜日 9:30～17:00 (12:00～13:00を除く)

\* 祝祭日、当社の休日を除く

住所: 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10

**オムロン周辺機器商品はインターネット  でもお買い求めいただけます。**

 ホームページアドレス

<http://www.omron.co.jp/ped-j/direct/index.html>

\* 無断複写・転載を禁止します。 \* 乱丁本・落丁本はお取り替えいたします。